

RoomOS 11.14

Cisco Board および Desk Series ユーザーガイド



目次

このユーザーガイドの内容



はじめに	
Cisco Board Pro G2	4
Cisco Board Pro	5
Cisco Board	6
Cisco Desk Pro	7
Cisco Desk	8
Cisco Desk Mini	9
RoomOS 11：基本的なナビゲーション	10
Bluetooth® とペアリングする	11
ヘッドセット (Desk Series、Board Pro)	12
USB カメラとして使用 (Desk Pro、Desk)	13
自分のログイン情報でサインインする	14
ビデオコール	
RoomOS 11：コール制御	16
音声設定	17
連絡先リストから発信する	18
発信前に連絡先を編集する	19
名前、電話番号、またはアドレスを使用 して発信する	20
着信コール	21
通話中にコールを受信する	22
通話から自分を切断する	23
通話を保留にし、保留中の通話を再開する	24
対応中の通話を転送する	25
帯域を変更する	26
応答不可を有効にする	27
すべての通話を自動転送する	28
通話中にキーパッドを開く	29
進行中のコールに参加者を追加する	30
ミーティングから参加者を切断する	31
ミーティングへの参加者を承認する	32
ミーティング中にスピーカーをピン留めする	33
ミーティング中に挙手する	34
最近の通話の詳細を検索する	35

Cisco Proximity

Cisco Proximity の超音波信号	37
------------------------	----

コンテンツ共有

ケーブルを使用したコンテンツの共有	39
Webex アプリケーションでコンテンツを共有する	40
Miracast® でコンテンツを共有	41
Airplay® でコンテンツを共有	42
通話中に画面レイアウトを変更する	43
ホワイトボード	44
セッションを終了してデバイスをクリアする	45
共有コンテンツに注釈を付ける	46
注釈や図面を電子メールで送信する	47
有線タッチ再ダイレクト	48
Web アプリ	49

スケジュールされた会議

スケジュールされたミーティングに参加する	51
Webex ミーティングに参加する	52
サードパーティのミーティングに参加する	53

連絡先

お気に入り、履歴、ディレクトリ	55
通話時に誰かをお気に入りに登録する	56
通話時以外に誰かをお気に入りに追加する	57
お気に入りを編集する	58

カメラ制御

カメラのオンとオフを切り替える	60
通話中および非通話時にセルフビューに アクセスして調整する	61
セルフビューを移動する	62
仮想背景 (Desk Series)	63
カメラを手動で制御する	64
自動カメラモードを選択する (Board Series)	65
相手先カメラの制御	66

設定

コントロールパネルとデバイス設定	68
------------------	----

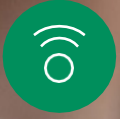
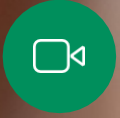
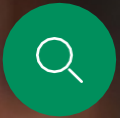
コンテンツのテーブル内のすべてのエントリがアクティブなハイパーリンクでありを使用すると、対応するセクションに移動できます。サイドバーのアイコンをクリックすると、章単位で移動できます。

このガイドでは、オンプレミスサービスに登録する場合の Cisco Board Series (Board Pro、Board) および Cisco Desk Series (Desk Pro、Desk、Desk Mini) の使用方法について説明します。特定の機能がすべてではなく 1 つのシリーズまたはデバイスに適用される場合は、該当するシリーズまたはデバイスが記載されます。

Cisco Board は、スタンドアロンデバイスとして使用することも、Touch 10 または Room Navigator で制御することもできます。このガイドでは、スタンドアロンデバイスとしての Boards の使用について説明します。

Boards でタッチコントローラを使用している場合は、『Cisco Room Series ユーザーガイド』の「タッチコントローラの特長と機能」を参照してください。

注意：このユーザーガイドで説明する一部の機能は特定の市場においてオプションであり、お使いのデバイスには該当しない場合があります。



はじめに



はじめに

Cisco Board Pro G2

4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、高解像度 4Kタッチスクリーンを備えたオールインワンデバイスです。フロアスタンド、ホイールベース、壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。

Board Pro G2 には、55 インチと 75 インチの 2 種類の画面サイズがあります。

Board Pro コネクタパネルの詳細については、『管理ガイド』を参照してください。



- ① カメラ
- ② スピーカー（下部）
- ③ 磁気ペンホルダー（両側）
- ④ コネクタパネル（背面）



はじめに

Cisco Board Pro



4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、高解像度 4K タッチスクリーンを備えたオールインワンデバイスです。フロアスタンド、ホイールベース、壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。



Board Pro には、55 インチと 75 インチの 2 種類の画面サイズがあります。



Board Pro コネクタパネルの詳細については、『管理ガイド』を参照してください。



- ①カメラ
- ②スピーカー（下部）
- ③磁気ペンホルダー（両側）
- ④コネクタパネル（背面）



はじめに

Cisco Board



4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、高解像度 4K タッチスクリーンを備えたオールインワンデバイスです。フロアスタンド、壁面スタンド、壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。第 2 世代の Board は S シリーズと呼ばれ、ハードウェアプラットフォームにマイナーな最適化が施されています。



Board には、次の 3 つの画面サイズがあります。

- Board 55 および 55S（55 インチの LED 画面を搭載）。
- Board 70 および 70S（70 インチの LED 画面を搭載）。
- Board 85S（85 インチの LED 画面を搭載）。



シリーズとサイズによって若干の違いがあるため、ボードコネクタパネルの詳細については、『[管理ガイド](#)』を参照してください。



- ①カメラ
- ②マイクアレイ
- ③ホームボタン
- ④コネクタパネル（背面）
- ⑤スピーカー
- ⑥磁気ペンホルダー



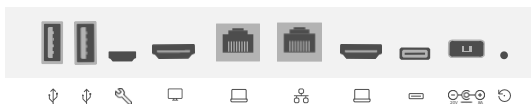
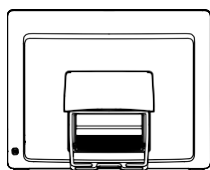
はじめに

Cisco Desk Pro

PC モニタとして使用します。HDMI または USB-C ケーブルを使用して、コンピュータに接続します（下図参照）。USB-C ケーブルを使用すると、ラップトップを同じケーブルで充電できます。

Desk Pro で PC 画面を表示するには、[PC 入力 (PC Input)] をタップします。

着信コールは、応答不可を有効にしていない限り、PC モードかビデオモードかを問わず、通常どおり表示されます。
[「応答不可を有効にする」\(ページ\)](#)を参照。



1 2 3 4 5 6 7 8 9

- ① USB ポート
- ② サービスポート
- ③ HDMI 出力：スクリーン
- ④ ネットワークの拡張。コンピュータネットワークをこの端子に接続することで、Desk Pro と共通の接続を共有できます
- ⑤ ネットワーク
- ⑥ HDMI 入力：コンテンツシェアリング
- ⑦ USB-C コネクタ
- ⑧ 電源
- ⑨ 初期設定リセットピンホール



- ① プライバシーシャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量コントロールおよびマイクミュートボタン
- ③ ユニットの右側にある USB およびミニジャックソケット
- ④ スタイラス
- ⑤ スピーカー
- ⑥ マイク (6 か所)
- ⑦ デバイスの背面での電源オン/オフ



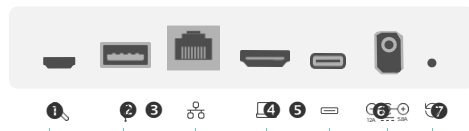
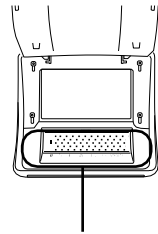
はじめに

Cisco Desk

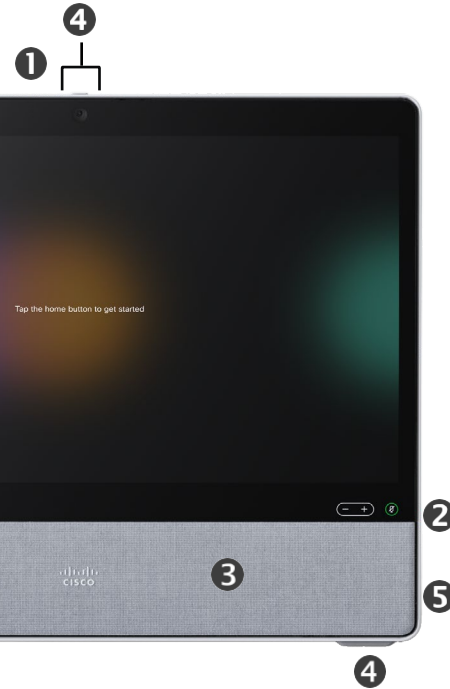
PC モニタとして使用します。HDMI または USB-C ケーブルを使用して、コンピュータに接続します（下図参照）。

Webex Desk で PC 画面を表示するには、[PC入力 (PCInput)] をタップします。

着信コールは、応答不可を有効にしている限り、PC モードかビデオモードかを問わず、通常どおり表示されます。
[「応答不可を有効にする」\(ページ\)](#) を参照。



- ① サービスポート
- ② USB ポート (ヘッドセット)
- ③ ネットワーク
- ④ HDMI 入力：コンテンツシェアリング
- ⑤ USB-C コネクタ
- ⑥ 電源
- ⑦ 初期設定リセットピンホール



- ① プライバシーシャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量コントロールおよびマイクミュートボタン
- ③ スピーカー
- ④ マイク (4 か所)
- ⑤ デバイスの背面での電源オン/オフ



はじめに

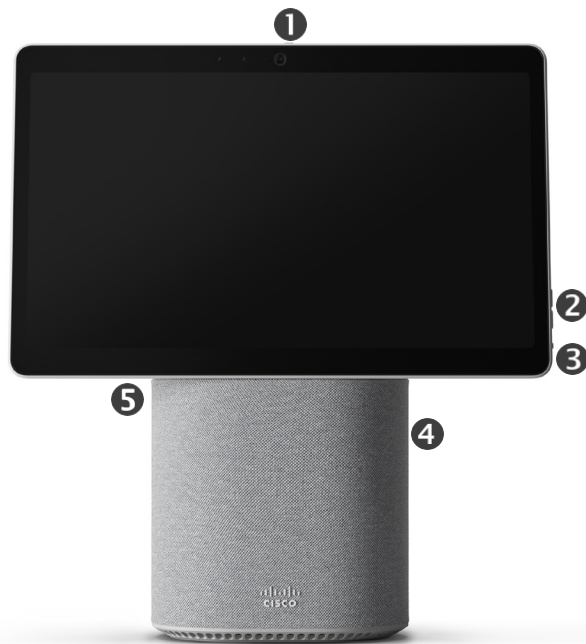
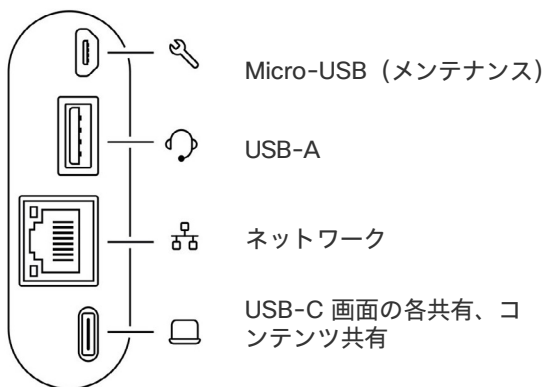
Cisco Desk Mini

PC モニタとして使用します。USB-C ケーブルでコンピュータを接続します。画面を拡張し、Desk Mini のスピーカー、マイク、カメラ、タッチコントロールをラップトップで実行中のアプリケーションで使用します。

着信コールは、応答不可を有効にしている限り、PC モードかビデオモードかを問わず、通常どおり表示されます。

[「応答不可を有効にする」\(ページ\)](#) を参照。

デバイスの背面にはコネクタをカバーする着脱可能な磁気パネルがあります。Desk Mini のコネクタは次のとおりです。



- ① プライバシーシャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量コントロールおよびマイクミュートボタン
- ③ 画面裏の電源オン/オフ
- ④ スピーカー
- ⑤ マイク

はじめに

RoomOS 11 : 基本的なナビゲーション

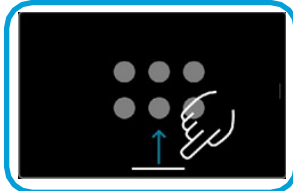
デバイス名をタップすると、その連絡先情報が表示されます。

ホーム画面と開いているアプリにアクセスするには、下部のハンドルを上から下にスワイプします。これによりタスクスイッチャーが開きます。



ボタンをタップするか右から左にスワイプすると、コントロールパネルが開きます。

ボタンの下のドットは、画面外にボタンがまだあることを意味します。スワイプして確認してください。



タスクスイッチャーには、通話中であるかどうかに関係なく、開いているすべてのアプリが表示されます。ラップトップが接続されている場合は、その画面がタスクスイッチャーに表示されます。



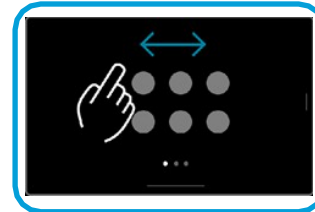
セッションで作成したホワイトボードは、タスクスイッチャーで個別のアプリとして開きます。

[ファイル (Files)] ボタンをタップすると、デバイスで作成したすべてのホワイトボードと、デバイスで利用可能なその他のファイルが表示されます。



一部のアプリケーションはダイアログとして開きます。ダイアログの上端をタッチして押さえたまま移動します。ダイアログの外側をタップして閉じます。

全画面表示アプリケーションを閉じるには、画面を下から上にスワイプします。次に、閉じるアプリケーションのプレビュー画像を上から下にスワイプします。



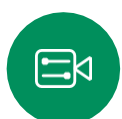
RoomOS 11 の概要

Cisco Board および Desk Series は、新しい RoomOS 11 オペレーティングシステムをサポートしています。

使い慣れた機能のほとんどは以前と同じように RoomOS 11 で動作しますが、一部が変更されていたり、別の場所からアクセスします。使用可能な新しい機能もあります。

このガイドでは、新機能や『Board および Room Series のデバイス用 RoomOS 11 ユーザーガイド』に記載されている既存の機能への変更について記載されています。

RoomOS 11 のユーザー体験の詳細については、<https://help.webex.com/n01kjh1/>を参照してください。





はじめに

Bluetooth® とペアリングする

Bluetooth 接続を使用すると、電話機やラップトップなどの外部デバイスと Cisco デバイスをペアリングできます。ヘッドセットをペアリングすることもできます。次のページを参照してください。

Cisco デバイスのスピーカーと Bluetooth 経由で接続されているデバイスを切り替えることができます。ユーザーインターフェイスのステータスバーにあるアイコンを選択し、使用可能なデバイスから選択します。

注：ヘッドセットと別の Bluetooth デバイスの両方を同時に接続することはできません。



デバイスをペアリングする

注：通話中に Bluetooth を使用して音楽をストリーミングすることはできません。

外部デバイスをペアリングするには：

1. コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップし、[Bluetooth] までスクロールします。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。デフォルトで有効になっています。
2. [検出可能 (Discoverable)] をオンに切り替えます。新しいデバイスを接続するときのみ、Cisco デバイスを [検出可能 (Discoverable)] として設定する必要があります。Cisco デバイスは、5 分後に自動的に [検出可能 (Discoverable)] モードを終了します。
3. デバイスの [Bluetooth 設定 (Bluetooth settings)] に移動し、利用可能なデバイスをスキャンします。
4. デバイスリストから Cisco デバイスを選択すると、ペアリングが始まります。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功すると、接続済みとしてリストされます。ペアリングは完了しています。

アイコンはここに表示されます。タップして、Cisco デバイスのスピーカーと別のデバイスを切り替えます。

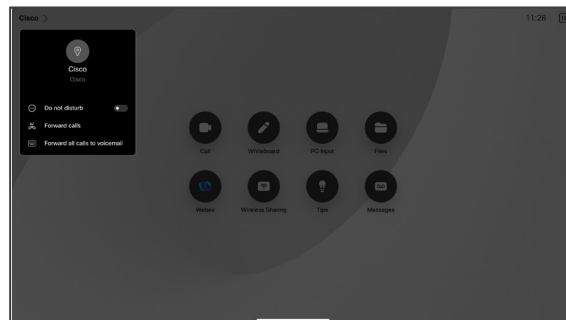
🔊 スピーカーアナログ

🎧 ヘッドセット

🎧 USB ハンドセット

📞 USB ハンドセット

📶 Bluetooth デバイス



Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商号は、それぞれの所有者のもです。



はじめに

ヘッドセット (Desk Series, Board Pro)



Bluetooth ヘッドセット[®]

Cisco Desk Series デバイスまたは Board Pro では、Bluetooth ヘッドセットを使用できます。デバイスと直接ペアリングするか、USB Bluetooth ドングルを使用します。複数のヘッドセットをデバイスにペアリングできますが、一度に使用できるのは 1 つだけです。

次の Bluetooth プロファイルがサポートされています。

- HFP (ハンズフリープロファイル)
- A2DP (高度な音声配信プロファイル)
- ヘッドセットでは HFP と A2DP の両方、または HFP のみがサポートされている必要があります。[A2DP のみ] には、対応していません。

範囲は最大 10 m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声デバイスのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとデバイスの音量は同期されています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオシステムの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能：

- 着信通話の応答
- 着信通話の拒否
- 通話の終了
- 通話の保留と再開
- 音量の増減

一部のヘッドセットにはミュートコントロールがあります。Cisco のヘッドセットを使用する場合、ヘッドセットとデバイスのミュートコントロールは同期されています。その他のヘッドセットの場合、ミュートコントロールはデバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。



Bluetooth ヘッドセットとペアリングする

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。不明な点については、ヘッドセットのマニュアルを参照してください。
2. コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップし、[Bluetooth] までスクロールします。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。デフォルトで有効になっています。
3. Cisco デバイスが他のデバイスをスキャンします。検出された Bluetooth ヘッドセットがデバイスリストに表示されます。
4. デバイスを選択するとペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが正常に行われると Cisco デバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。ペアリングは完了しています。

USB Bluetooth ドングル

このドングルを使用すると、ヘッドセットが USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とせん。デバイスの音量は同期されません。

<https://help.webex.com/nkiifbo/> もご覧ください。

USB ヘッドセット

(Desk Series)

Cisco Desk Series は、USB 有線音声デバイスの標準プロトコルを実装しています。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる) 標準を独自に実装できます。

そのため、同じメーカー製のモデルでも動作が異なる場合があります。すべてのヘッドセットとハンドセットの動作を保証することはできません。

有線ヘッドセットとドングルを使用して動作するヘッドセットのみテスト済みです。

USB ヘッドセットの詳細を読み、<https://help.webex.com/nkiifbo/> でサポートされているヘッドセットの完全なリストを参照してください。



はじめに

USB カメラとして使用 *(Desk Pro, Desk)*

Cisco Desk または Desk Pro も USB カメラとして使用することもできます。

Desk または Desk Pro を Cisco に登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

Desk または Desk Pro を Cisco に登録している場合も USB カメラとして使用できますが、次の点にご注意ください。

- Desk または Desk Pro は、ソフトウェアクライアントがカメラを使い始めたとき、およびケーブルが接続されていないときに応答不可 (DND) モードになります。
- これにより、専用のコンピュータが常時デバイスに接続されている場合でも、通常の Cisco のコールにデスクデバイスを使用することができます。

Desk または Desk Pro を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Desk または Desk Pro の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この構成では、Desk または Desk Pro のマイクとスピーカーが使用され、優れたサウンド体験が実現されます。

この構成を拡張して外部モニタを含める場合は、通常の方法でコンピュータをモニタに接続します。

その他のデバイス設定も、[応答不可 (Do Not Disturb)] を除いてすべてアクセスできます。[応答不可 (Do Not Disturb)] は、Cisco に登録された Desk または Desk Pro で無効にすることはできません。

登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用

Cisco のビデオデバイスを初めて起動すると、セットアップウィザードが表示されます。

このウィザードでは、Cisco サービスへの登録方法 (クラウドまたはオンプレミス) を指定できます。Desk または Desk Pro は、USB デバイスとしてのみ使用する場合、ウィザードをスキップするオプションを提供します。

登録方法を示す詳細な手順が画面に表示されます。

Desk または Desk Pro を後で Cisco に登録する場合は、コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。[デバイスの有効化 (Device activation)] までスクロールして選択します。





はじめに 自分のログイン情報でサインインする



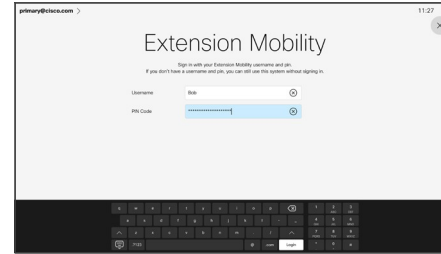
1



[Extension Mobility] ボタンをタップします。

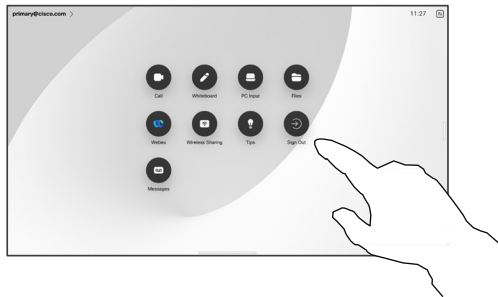
ボタンが表示されない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

2



ユーザー名と PIN コードを入力し、[ログイン (Login)] をタップします。正常にサインインしたことを示す確認メッセージが表示されます。

3



ログアウトするには、[サインアウト (Sign out)] をタップします。ボタンが表示されない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

Extension Mobility について

ミーティングルームや静かな部屋に設置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の下で動作するデバイスでは、自分の個人用ログイン情報を使用してデバイスにログインすることができます。自身の個人用ログイン情報を使用して。

CUCM は、その特定のデバイスにすべての着信コールをルーティングします。

Extension Mobility からログアウトすると、[履歴 (Recents)] の一覧はデバイスからクリアされます。



ビデオコール



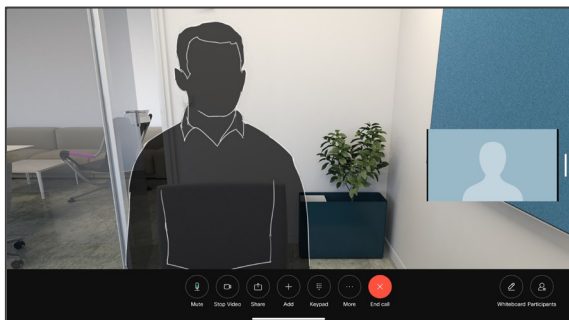
ビデオコール

RoomOS 11 : コール制御



通話中に画面をタップすると、通話コントロールが表示されます。

[ミュート/ミュート解除 (Mute/Unmute)]、[音量 (Volume)]、[ビデオの開始/停止 (Start/Stop video)]、[ミーティングから退出 (Leave meeting)]などの標準ボタンに加えて、通話中に必要な他のすべてのコントロールは、画面下部の同じ場所にあります。



- [レイアウト (Layout)]メニュー：ミーティングのスタイルに合ったレイアウトを選択できます。
- セルフビュー。セルフビューを変更および移動するための手動カメラコントロールとオプションを開きます。
- 共有 (Share) 。共有オプションを開きます。
- 参加者リスト。現在の通話に参加している人のリストを開きます。参加者をタップすると、使用可能なオプション（お気に入りとしてマーク (mark as Favorite) など）が表示されます。ホスト/共同ホストには、[通話から削除 (Remove from Call)]、[許可 (Admit)]、[ミュート (muting)]などの追加オプションがあります。
- 詳細。[その他 (More)]をタップして、[ミーティングのロック (Lock Meeting)]、[マイク設定 (Microphone settings)]（コントロールパネルからも利用可能）、[参加者の追加 (Add 参加者)]などの追加オプションを表示し、キーパッドを開きます。



通話中にラップトップ画面を表示する

Cisco デバイスをラップトップ画面拡張として使用するには、HDMI または USB-C ケーブルをラップトップに接続します。タスクスイッチャーにラップトップの画面が表示されます。

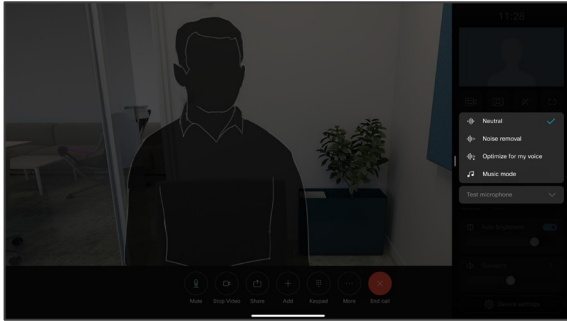
通話中にラップトップの画面を表示するには、タスクスイッチャーでラップトップを選択します。通話とプレゼンテーションがフィルムストリップに表示されます。ラップトッププレビューを縮小したり、通話を拡大するには、ラップトッププレビューの上部にあるハンドルから下にドラッグします。フィルムストリップをタップしてドラッグすると、小さなフローティングウィンドウに変わり、画面上の指定した領域にドラッグアンドドロップできます。



ビデオコール 音声設定



次の音声設定は、マイクのオプションから、通話中または通話外で使用できます。これらの設定のいずれかをオンにするには、デバイスのコントロールパネルを開き、[マイク (Microphone)] をタップします。オンにするオプションをタップします。いずれも必要ない場合は、[ニュートラル (Neutral)] します。



ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースやホームオフィスで特に役立ちます。



自分の声に最適化

通話中に周囲のノイズを除去し、自分の声だけを拾って、近くで話している他の人の声がマイクに入らないようにします。



マイクのテスト

音声を録音して再生し、Cisco デバイスが音声を適切に拾っているかチェックし、ノイズ除去設定の効果をテストします。



音楽モード

音楽モードを使用すると、音楽のダイナミックレンジを通過させることができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くことが重要な場面でより良い体験が生まれ出されます。

音楽モードは、リモートミュージックレッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音の除去機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要性を回避しています。

音楽モードが使用されていない場合、デバイスは追加のノイズを除去し、サウンドレベルの変動を減らします。これは、ミーティングの設定に対応し、気を散らすノイズを減らすのに役立ちます。追加のフィルタ処理は、録音した音楽をデバイスで再生するときにも機能します。

音楽モードを使用するには、まずデバイスで有効にします。コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。[音楽モード (Music mode)] までスクロールして選択します。オンまたはオフに切り替えます。

注：音楽モードとノイズ除去は同時に使用できません。

呼出音とボリューム

呼出音を変更したり、呼出音の音量を調整したりするには、コントロールパネルを開き、[設定 (Settings)] をタップします。[呼出音と音量 (Ringtone and volume)] までスクロールします。リストから呼出音を選択し、スライダーを使用してサウンドレベルを設定します。

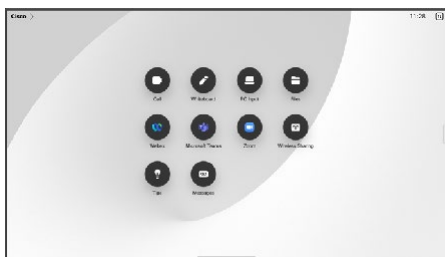


ビデオコール

連絡先リストから発信する



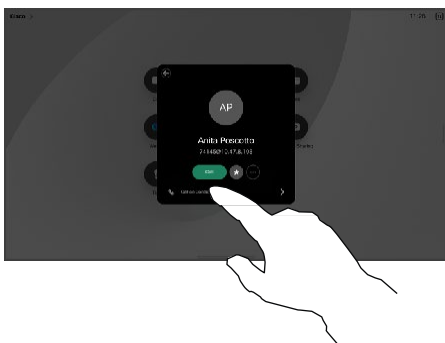
1



[発信 (Call)] ボタンをタップします。



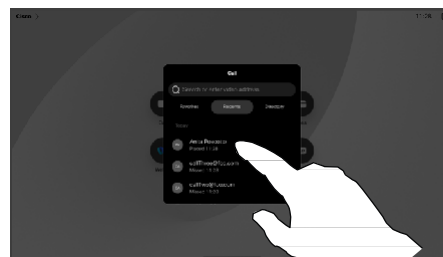
3



その連絡先をタップし、緑色の[通話 (Call)] ボタンをタップします。

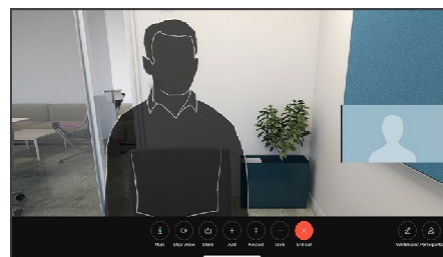


2



[お気に入り (Favorites)]、[履歴 (Recents)]、または [ディレクトリ (Directory)] をタップし、下にスクロールして連絡先を見つけます。

4



発信されます。通話を終了するには、赤色の [通話終了 (End Call)] ボタンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)]。これらの連絡先は自分で設定します。頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要が生じる連絡先のエントリーです。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、デバイスがすべてのリストを検索します。
- エントリを [お気に入り (Favorite)] に追加します。発信前およびコールレートを変更する前に編集します。

[履歴 (Recents)] を削除できるのは Web インターフェイスからのみです。

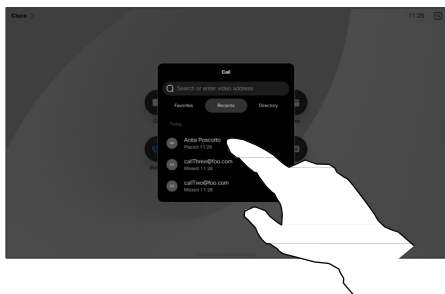


ビデオコール

発信前に連絡先を編集する



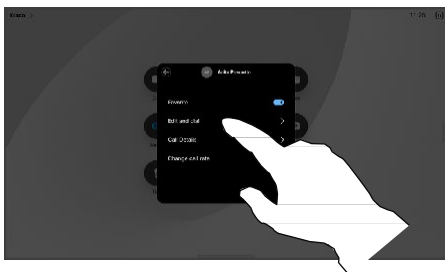
1



[発信 (Call)] ボタンをタップします。編集する連絡先を見つけてタップします。



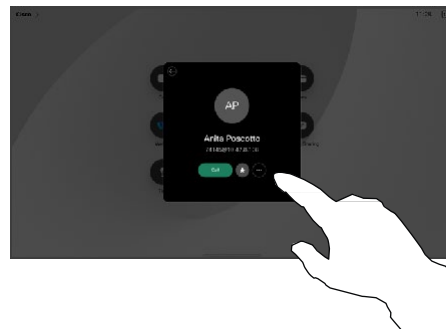
3



[編集 (Edit)] をタップしてダイヤルします。

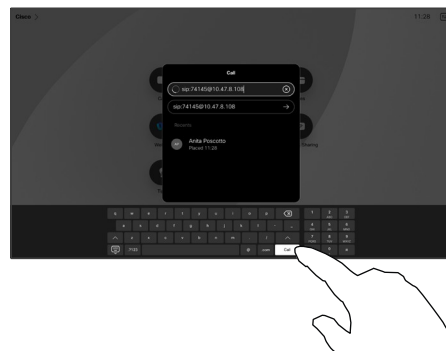


2



連絡先カードの [詳細 (...)] (More (...)) ボタンをタップします。

4



キーボードを使用して編集をしたら、緑色の [通話 (Call)] ボタンをタップして発信します。

エントリの編集について

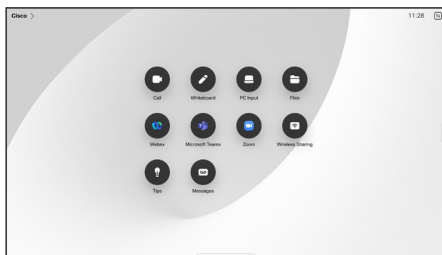
発信する前に、[連絡先 (Contact)] リストのいずれかのエントリを編集する必要があるかもしれません。プレフィックス、サフィックスを追加するか、エントリを変更する必要がある場合があります。



ビデオコール

名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する

1



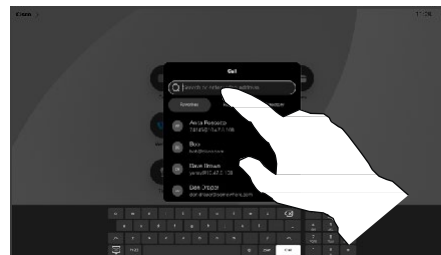
[発信 (Call)] ボタンをタップします。

3



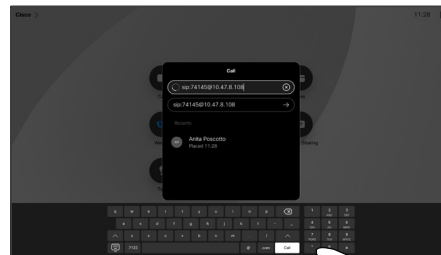
名前、番号、またはアドレスを入力します。入力内容に合わせて、一致するものや候補が表示されます。正確に一致するものが表示されたら、タップします。表示されない場合は入力を続けます。

2



[検索 (Search)] フィールドをタップします。これにより、キーボードが開きます。

4



連絡先を見つけて選択したら、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップして発信します。

発信について

連絡先に登録されていない相手に電話をかけるには、画面に表示された仮想キーボードに名前、住所、または番号を入力します。画面に表示される仮想キーボード。

これまでの発信先と発信元は、[履歴 (Recents)] リストに一覧され、[お気に入り (Favorites)] に登録できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

通話中、内線にアクセスしたり暗証番号を提供したりするために、数字の入力が必要になることがあります。呼制御の [キーパッド (Keypad)] ボタンをタップしてキーボードを開きます。

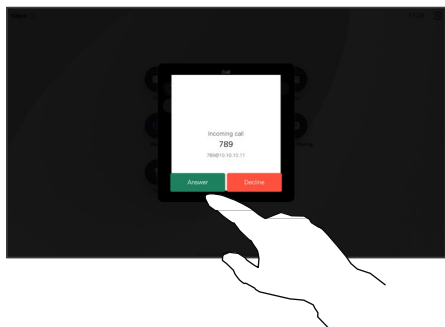
[履歴 (Recents)] は、Web インターフェイスでしかクリアできませんのでご注意ください。



ビデオコール 着信コール

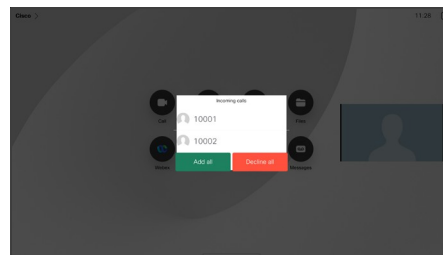


1



着信通話はタップして応答または拒否できます。

2



ビデオインフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。これらをすべて現在の通話に追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

着信があった場合

着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。

- コールを拒否すると、話し中であるという情報が発信者に送られます。
- コールを無視すると、発信者は相手が不在である（相手がコールに応答しなかった）と認識します。
- ビデオインフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。必要に応じて、貴社のビデオサポートチームにお問い合わせください。





ビデオコール

通話中にコールを受信する



[追加 (Add)]: デバイスが CUCM の管理下でアドホック会議を実行している場合、着信した参加者を追加することができます。

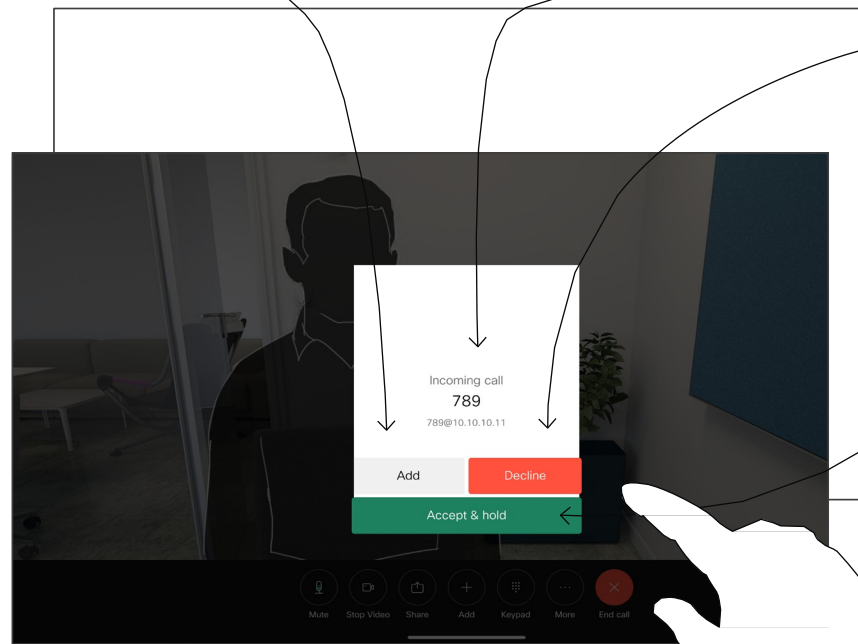
新しい着信の ID。

着信通話を [拒否 (Decline)] し、続けている通話を続行します。

オプションについて

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。

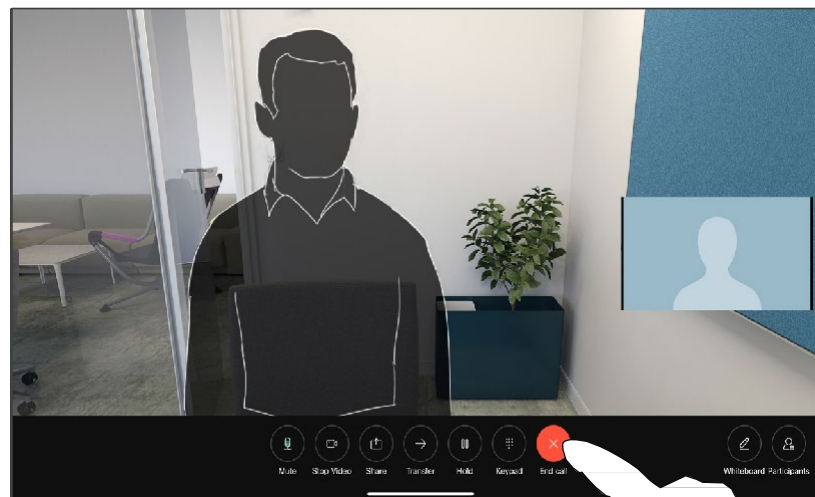
[応答および保留 (Accept & Hold)]: 発信に回答し、現在の通話を保留にします。





ビデオコール

通話から自分を切断する



通話を切断するには [通話を終了 (End Call)] をタップします。

通話の切断について

通話中に[終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。2 者間通話では、これで通話が終了します。

複数の参加者がいるミーティングコールでは、[通終了 (End Call)] をタップすると、自分が通常の参加者である場合は自分の参加だけが終了します。

ただし、あなたが会議のホストの場合は、[通話の終了 (End call)] をタップすると、一部タイプの会議で、会議全体が終了します。

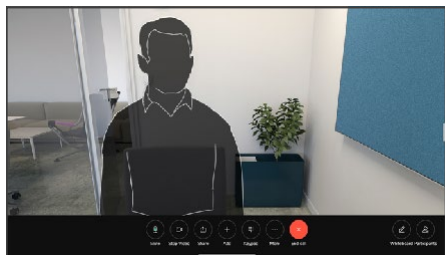


ビデオコール

通話を保留にし、保留中の通話を再開する

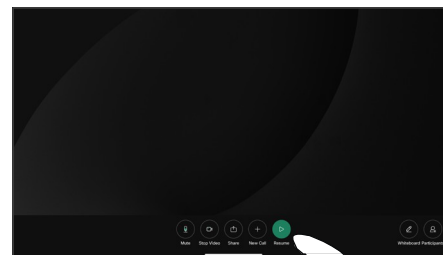


1



通話中に [保留 (Hold)] をタップします。
[詳細 (More)] をタップする必要がある
場合があります。

2



[再開 (Resume)] をタップして保留
中の通話に戻ります。

保留について

通常、通話を別の人に転送する前に、通話相手を保留にします。また、ミュートは、ビデオ送信の停止の代わりとして使用できます。



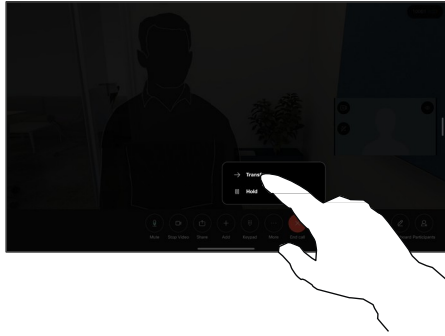


ビデオコール

対応中の通話を転送する



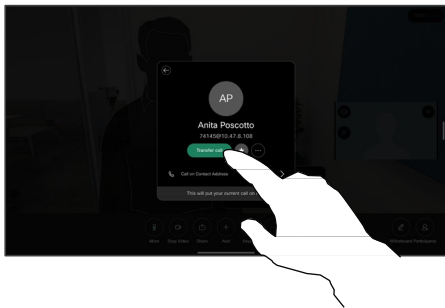
1



[詳細 (More)] > [転送 (Transfer)] の順にタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



3



緑色の [通話を転送 (Transfercall)] ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送してよいかどうかを確認します。転送される側は、保留のままになっています。

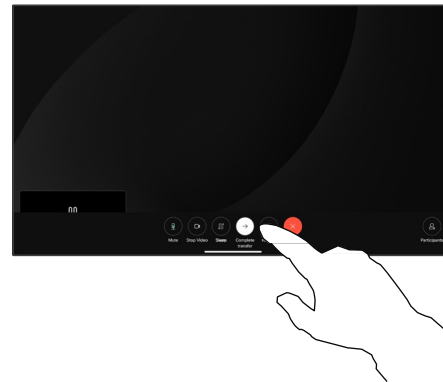


2



連絡先の検索

4



[転送完了 (Complete Transfer)] をタップします。

転送について

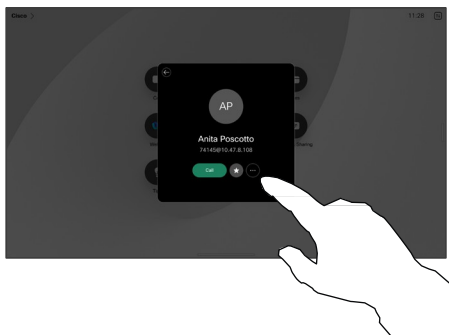
応答中の通話は、別の人に転送することができます。転送常に任意であり、転送する前に通話転送先に相談できます。



ビデオコール

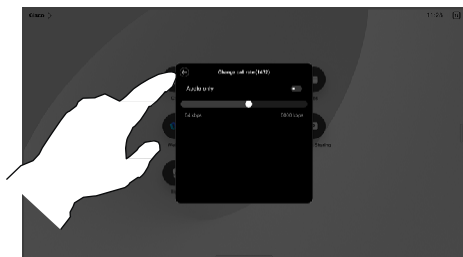
帯域を変更する

1



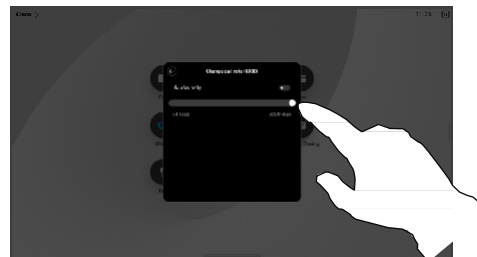
[通話 (Call)] ボタンをタップして、コールレートを変更するエントリを特定します。エントリをタップし、[詳細 (More)] をタップします。

3



[戻る (Back)] ボタン > [通話 (Call)] の順にタップします。

2



[コールレートの変更 (Change Call Rate)] をタップします。スライダを移動します。

コールレートについて

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。単位は Kbps (キロビット/秒) です。

コールレートが高いほど品質は良くなりますが、帯域幅の消費も大きくなります。

デバイスにはデフォルトのコールレートが用意されています。通常は、ビデオサポートチームが設定します。通常の場合では、必要に応じてデバイスがコールレートを自動的に調整します。これには、デバイスや接続がサポートしているコールレートよりも高いレートで通話を試みた場合に、ビデオコールが途切れのを避ける目的があります。

何らかの理由で自動帯域設定に障害が発生した場合、最終手段として手動で帯域を調整することもできます。

通話中に帯域を変更することはできませんが、左で示されており、発信の直前に変更することはできます。



ビデオコール

応答不可を有効にする

1



ホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。

2



[通知不可 (Do not disturb)] をオンにします。設定を無効にするには、もう一度タップします。

応答不可について

着信コールに回答しないようにデバイスを設定することができます。他の人に発信することができます。

この機能には、ビデオサポートチームによってタイムアウトが設定されている場合があります。タイムアウト後は、デバイスが通常どおり着信コールに回答ようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

この機能へのアクセスは、ビデオサポートチームによって削除されている可能性があることに注意してください。



ビデオコール

すべての通話を自動転送する



1



ホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。



2



転送する通話のエントリを選択します。連絡先を検索して選択します。次に緑色の [転送 (Forward)] ボタンをタップします。

通話の転送を停止するには、同じメニューを開き、[転送の停止 (Stop forwarding)] を選択します。

電話の転送について

デバイスで有効になっている場合は、ボイスメールまたは別の受信者のいずれかを選択すると、すべての通話を転送できます。

管理者は、表示されている一連のメニューとオプションへのアクセスを無効にすることができます。



ビデオコール

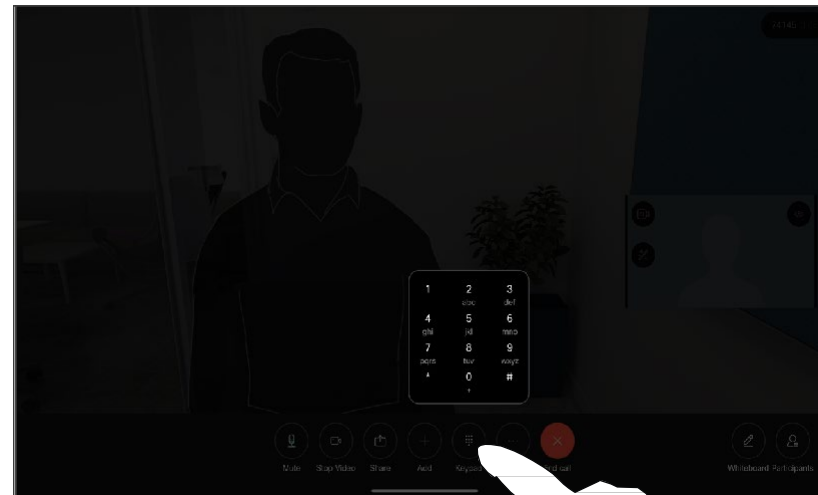
通話中にキーパッドを開く



通話中にキーパッドを使用する

通話中、内線にかけるか、何か（暗証番号など）を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。（たとえば、PINコードを意味します）。

数字を入力するには、タッチコントローラのキーパッドを開きます。



通話中に画面をタップして呼び制御を開きます。
次に、[キーパッド (Keypad)] ボタンをタップします。

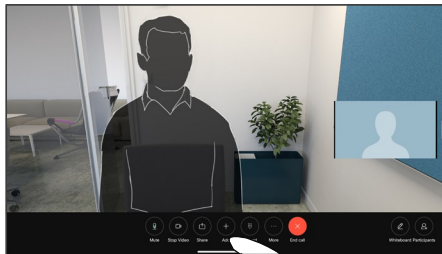


ビデオコール

進行中のコールに参加者を追加する



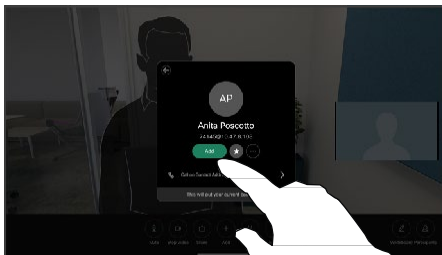
1



通話中に画面をタップして、呼制御にアクセスし、[追加 (Add)] をタップします。



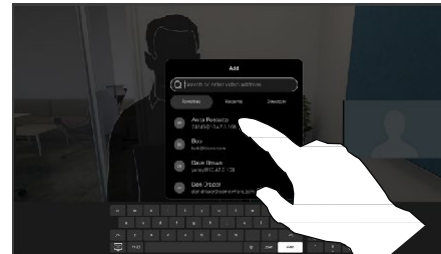
3



連絡先カードで[追加 (Add)] をタップします。

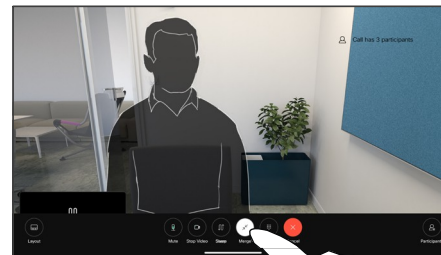


2



次にコールする相手を見つけて選択します。

4



コール制御で[マージ (Merge)] をタップして、新しいコールを既存のコールに追加します。ミーティングができるようになりました。

この手順は、ビデオインフラストラクチャで可能な人数まで繰り返せます。

ビデオミーティングについて

ネットワークには、複数の参加者とビデオミーティングを開始する機能が装備されている場合があります。

デバイスでサポートされる参加者の最大人数は、デバイスの構成とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオサポートチームへ問い合わせてください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者を一人ずつ呼び出す必要があります。

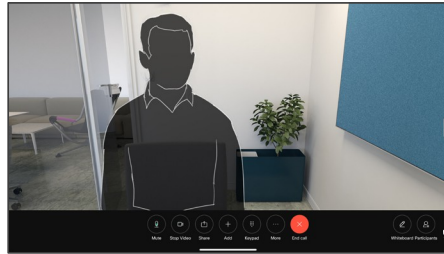
会議を開始したユーザーは、会議全体を終了することができます。他の参加者は、自分の接続だけを会議から切断できます。



ビデオコール

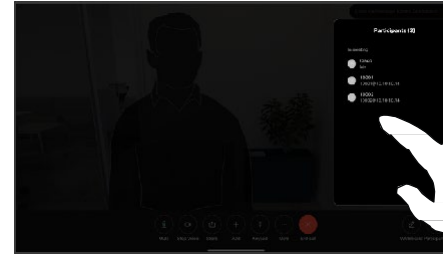
ミーティングから参加者を切断する

1



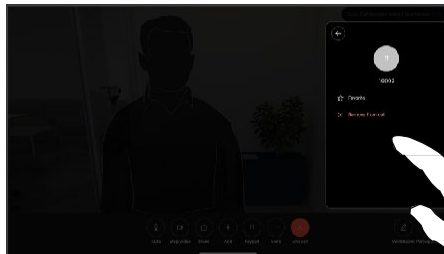
通話中に画面をタップすると、呼制御が表示されます。次に、[参加者 (Participant)] ボタンをタップします。

2



ミーティングからドロップさせる参加者をタップします

3



[通話から削除 (Remove from call)] をタップします。

ビデオミーティングについて

デバイスからビデオミーティングを実行する機能はオプションであり、デバイスによっては使用できない場合があります。

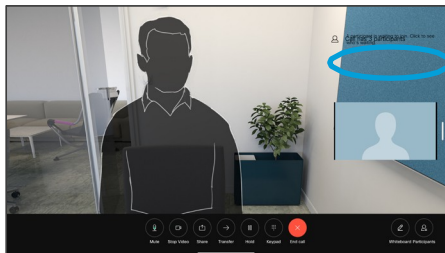
ミーティングから他の参加者を切断するには、ミーティングのホストである必要があります。



ビデオコール

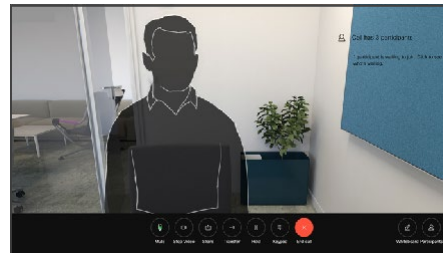
ミーティングへの参加者を承認する

1



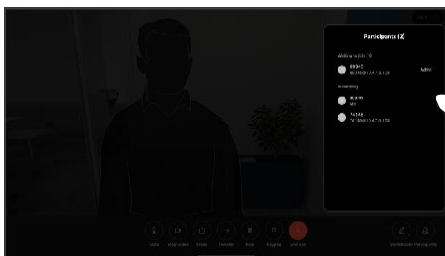
通話中に誰かがロビーで待っている場合には通知されます。

2



画面をタップすると、呼制御が表示されます。次に、[参加者 (Participant)] ボタンをタップします。

3



[承認 (Admit)] をタップして待っている参加者をミーティングに参加させます。

参加者の承認について

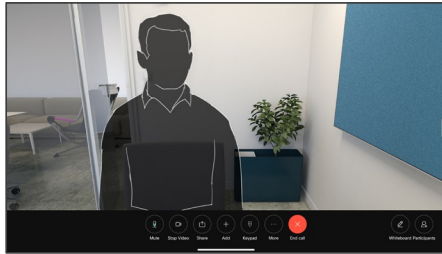
ロックされている CMS ミーティングでは、参加者を参加者リストからミーティングに参加させることができます。



ビデオコール

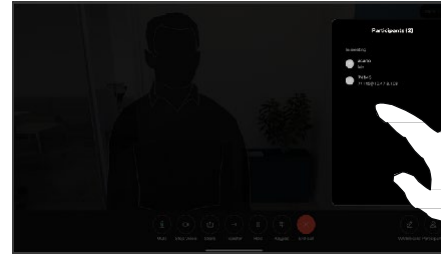
ミーティング中にスピーカーをピン留めする

1



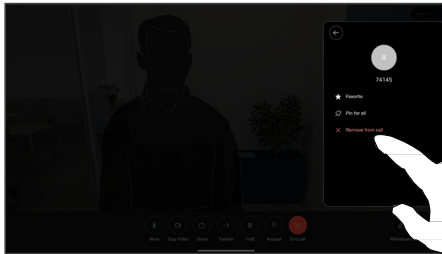
通話中に画面をタップすると、呼制御が表示されます。次に、[参加者 (Participant)] ボタンをタップします。

2



ピン留めする参加者をタップします。

3



[全員のピン留め (Pin for all)] をタップします。

スピーカーのピン留めについて

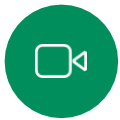
CMS ミーティングでは、ミーティング参加者をピン留めして、すべてのミーティング参加者にとって重要として表示できます。このようにして、参加者またはミーティング室は、発言中のスピーカーでなくても、全員の画面に表示されます。

スピーカーをピン留めすると、ピン留めされたことを示す通知が画面に表示されます。同様に、ピン留めを解除すると、ピン留めが解除されたことを示す通知が表示されます。

音声のみの参加者をピンすると、これはレイアウトに影響しません。

デフォルトでは、主催者のみが全員をピン留めできますが、ミーティングの主催者はミーティング設定でこれを変更できます。

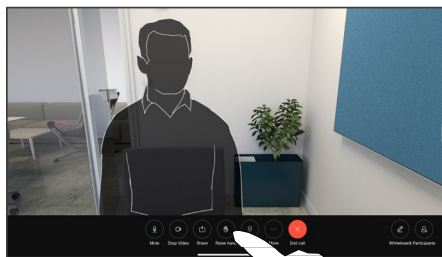
CMS ミーティングでのみ、ミーティング全体のスピーカーをピン留めできます。



ビデオコール

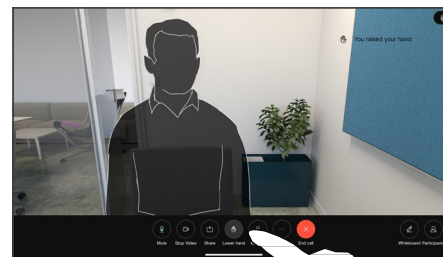
ミーティング中に挙手する

1



ミーティング中に画面をタップして呼制御を開きます。次に[挙手 (Raise Hand)] ボタンをタップします

2



手を下げるには、[手を下げる (Lower hand)] ボタンをタップします。これにより、名前の横にある参加者リストからもアイコンが削除されます。

挙手について

[挙手 (Raise Hand)] ボタンを使用して、会話を中断することなく、質問やコメントがあることを他の人に知らせます。

主催者とミーティングの他の参加者の両方に、誰かが手を挙げたという通知が画面に表示されます。最初に挙手すると、フルネームの通知が表示されます。

その後、[挙手 (Raise Hand)] アイコンは、何人が手を挙げたかを示します。

参加者リストを開くと、手を挙げた参加者を確認できます。

挙手は、2名以上の参加者がいるCMSミーティングでのみ使用できます。

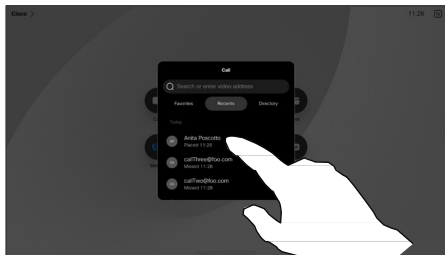


ビデオコール

最近の通話の詳細を検索する

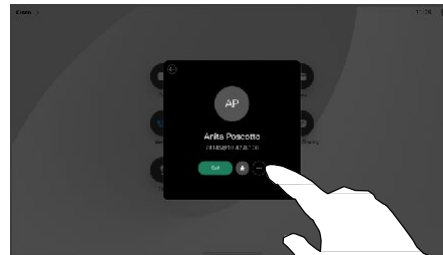


1



[通話 (Call)] をタップし、[履歴 (Recents)] リストでエントリを選択します。

2



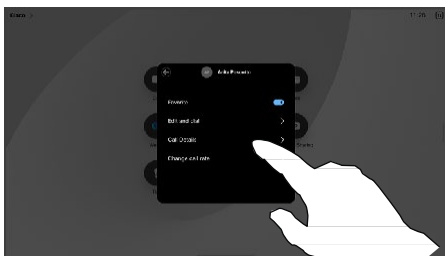
[詳細 (More)] をタップします。

通話の詳細について

最近の通話のトラブルシューティングが必要な場合は、最近の通話リストから通話の詳細を検索します。

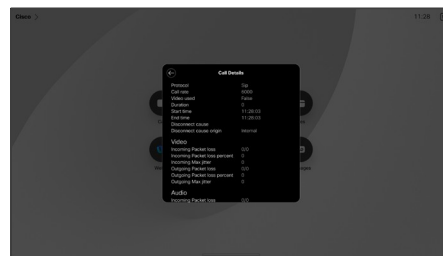


3



次の画面で、[通話の詳細 (Call details)] をタップします。

4



下方向にスクロールして通話の詳細を確認します。戻る矢印をタップして、詳細画面を終了します。





Cisco Proximity

Cisco Proximity の超音波信号

Cisco のビデオデバイスは、プロキシミティ機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空気中を伝達する超音波によって何らかの影響を感じる場合もありますが、75dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

これについては、カナダでの健康ガイドラインである http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 をご参照ください。

120 dB 未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

個人利用においては、スピーカーから20 cm以上の距離での超音波の音圧レベルは70 dB未満になります。

実際の利用ではほとんどの場合、使用者の耳に届く音圧レベルはこれら最大レベルよりはるかに低くなります。これは、スピーカーの指向性や距離による減衰に加え、一般的な部屋では高周波の高域成分が吸収されるためです。そのレベルは、ミーティングの空間における一般的なバックグラウンドノイズ/環境雑音レベルから、いわゆる通常の会話レベルまでの範囲となります。

したがって継続的に近接信号を受けても、安全であると考えられます。その近接信号を知覚し、影響を受ける人はほとんどいません。しかし、高周波数に対して鋭敏な聴覚を持っている人も若干おり、スピーカーの目の前または近くで聞きとれるケースもあります。

犬のような動物は聴覚の周波数範囲が非常に広いので、近接信号を聞きとれます。

しかし、近接信号の影響は音圧レベルに左右されます。また、犬が聞きとる音圧レベルの範囲も人間と比べて顕著な差があるわけではありません。20 kHzでの犬の聴覚しきい値は、0～10 dB程度になります。これは、人間の耳が最も敏感となる周波数範囲におけるしきい値と同じ値です。

近接信号が犬にもたらす影響について、Cisco ではテストや認定などを行っていません。制限レベルの存在により、近接信号がはっきりと聞き取れる状況は、犬にとって煩わしいものにならないと考えられるためです。

オフィスやミーティング室での、通常背景雑音や通常の会話と同等のレベルの超音波は、犬に影響を与えます。この機能を持つ当社の製品において、動物が近接信号によって悩まされているという報告は何年間もありません。

ただし、超音波を利用して犬を撃退する機器が実際に存在しているので、超音波の犬に対して影響が及ぶのではないかと考えるのはもっともなことです。通常このような機器は、犬に対して不快な超音波を出すものであり、悪影響を及ぼすものではありません。Cisco は犬撃退用途の機器の設計については専門外です。しかし、その手の機器の仕様分析では、概して音圧レベルが100 dB以上であることがわかっています。

Cisco ビデオコーデックを他社製スピーカーのシステムと一緒に使用する場合、Cisco による超音波音圧レベルの制御ができません。所定のスピーカー出力音圧レベルと周波数特性では、ほとんどの場合75 dBの制限を超えない音圧に収まります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

Cisco Proximity について

Cisco Proximity 機能を使用すると、コンピュータから Cisco のデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション（無料）をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> [英語] にアクセスしてください。

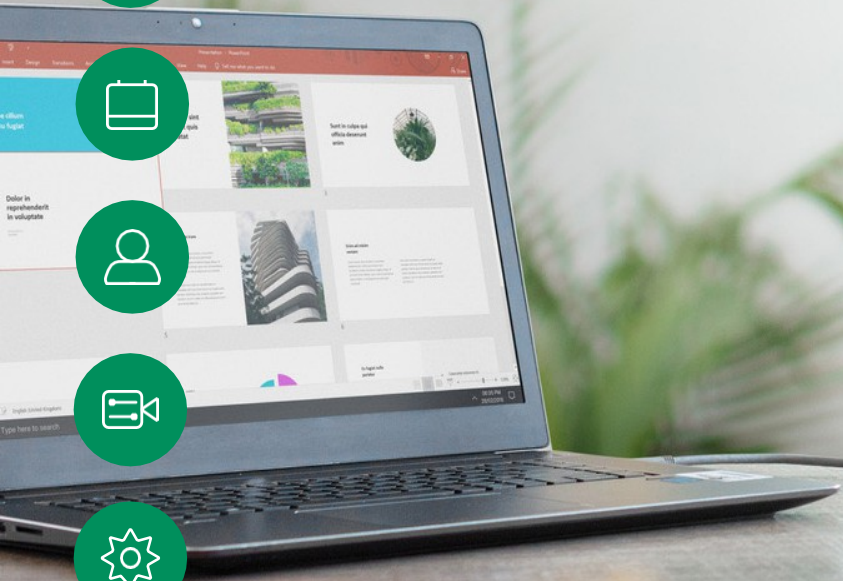
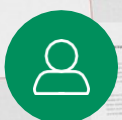
ビデオサポートチームは、機能を有効にしていない、一部の利用でできる機能を有効にしている、またはすべての利用できる機能を有効にしている場合があります。

Proximity は超音波を使用してユーザーを接続します（左側の詳細を参照）。パソコン、電話、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

ドアが閉じている場合、ミーティング室の外では Proximity は機能しません。ビデオエンドポイントの近くで Proximity を使用する必要があります。

プライバシーを確保するために、ミーティング室のドアを閉じて、盗聴の可能性を防ぎます。





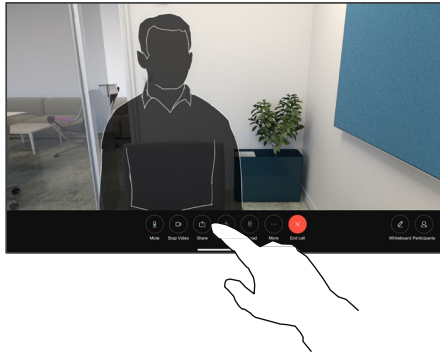
コンテンツ共有



コンテンツ共有

ケーブルを使用したコンテンツの共有

1



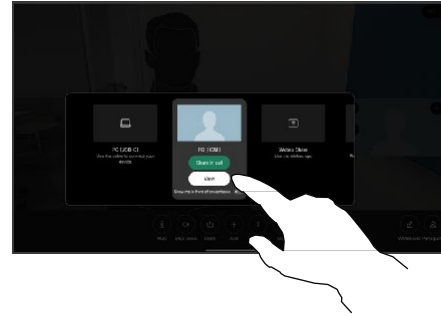
ケーブルを使用している場合、ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。呼び制御を開き、[共有 (Share)] ボタンをタップします。

3



コンテンツの共有を停止するには、[共有を停止 (Stop sharing)] をタップします。

2



送信元を選択します。[表示 (View)] をタップしてプレビューを表示します。まだ誰にもコンピュータ画面を表示できません。準備ができたなら [共有 (Share)] をタップします。または、[通話で共有 (Share in call)] をタップして、すぐに共有します。

コンテンツ共有について

USB-C または HDMI ケーブルを使用して PC をデバイスに接続することで、Cisco デバイス上のコンテンツとホワイトボードを共有します。または、Webex アプリ、Cisco Proximity、Miracast®、または AirPlay とワイヤレスで共有できます。

ケーブルを使用して非通話時に共有するには、送信元を接続し、スイッチがオンになっていることを確認します。コンピュータの画面がデバイスに表示されます。共有を停止するには、デバイス画面の下から上にスワイプして別の画面を選択するか、送信元との接続を切断します。

カメラをオンにすると、会議室でプレゼンテーションを行っているかのように、コンテンツの前に自分の姿を映すことができます。ラップトップを HDMI または USB-C ケーブルで接続するだけです。呼び制御を開き、[共有 (Share)] ボタンをタップします。[プレゼンテーションの前に表示 (Show me in front of presentation)] に切り替え、[通話で共有 (Share in call)] をタップします。画面上の目的の場所に自分の画像をドラッグアンドドロップし、自分の画像をピンチアンドズームしてサイズを変更します。

Miracast が有効になっている場合、クライアント無しでラップトップから Cisco デバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。通話中も、通話していないときもコンテンツを共有できます。通話中に共有するには、先に通話を開始します。

AirPlay が有効の場合、iPhone、iPad、Mac を接続して、画面の共有、共同作業、音声やビデオコンテンツの再生などをワイヤレスで行うことができます。



コンテンツ共有

Webex アプリケーションでコンテンツを共有する

Windows および Mac ラップトップ

1. Webex アプリケーションでデバイス名をクリックし、[デバイスで共有 (Share on device)] をクリックします。
2. 共有する画面またはアプリケーションを選択します。
3. 画面の上部に共有対象のプレビューが表示されます。画面上部のコントロールバーで下矢印をクリックします。
4. 完了したら、[共有の停止 (Stop Sharing)] をクリックします。



Webex アプリケーションについて

超音波を有効にすると、同じ部屋に入るとすぐにデバイスに自動的に接続できます。これらのデバイスを使用すると、同じ部屋にいる人とワイヤレスでコンテンツを共有できます。

モバイルの Webex アプリケーションでコンテンツを共有する場合は、クラウドペアリングが必要です。詳細については、[こちらの項目を参照してください](#)。



コンテンツ共有

Miracast® でコンテンツを共有

Windows ラップトップの場合

1. ラップトップで Windows + K キーを押すか、[アクションセンター (Action Center)] アイコンをクリックし、[接続 (Connect)] をクリックします。Windows が Miracast レシーバをスキャンします。
2. キャスト先の Board または Desk Series デバイスをクリックします。デバイスの画面に個人 識別 番号が表示されます。
3. ラップトップで個人識別番号を入力し、[接続 (Connect)] をクリックします。
 - 通話中に自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中に共有をキャンセルできます。
 - 非通話時は、すぐに共有が開始されます。
4. 共有が開始されます。

Android スマートフォンの場合

1. Samsung デバイスで [設定 (Settings)] メニューを開き、[Smart View] または [Dex] を選択します。他の Android デバイスでは名前が異なる場合がありますのでご注意ください。
2. キャスト先の Board または Desk Series デバイスをクリックします。デバイスの画面に個人識別番号が表示されます。
3. Android デバイスで個人識別番号を入力します。
4. [接続 (Connect)] をタップします。
 - 通話中に自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中に共有をキャンセルできます。
 - 非通話時は、すぐに共有が開始されます。
5. 共有が開始されます。



Miracast について

Miracast は Wi-Fi Direct を使用してラップトップから Cisco デバイスへの直接ネットワーク接続を確立し、ワイヤレスでコンテンツを共有します。通話中も、通話していないときもコンテンツを共有できます。通話中に共有するには、先に通話を開始します。共有をアクティブ化している際に、通話を発信または受信すると、Miracast セッションを切断します詳細については、[こちらの項目を参照してください](#)。



コンテンツ共有

Airplay® でコンテンツを共有

iPhone、iPad、Mac の場合



1. iPhone、iPad、Mac で [コントロールセンター (Control Center)] を開きます。[スクリーンミラーリング (Screen Mirroring)] を選択します。
2. キャスト先の Board または Desk Series デバイスを選択します。デバイスの画面にパスコードが表示されます。
3. Apple デバイスのパスコードを入力し、[OK] を選択します。
4. 共有が開始されます。

ホーム画面を下から上にスワイプすると [タスクスイッチャ (Task Switcher)] が開き、別のアプリに移動できます。これで共有が終了します。



Airplay について

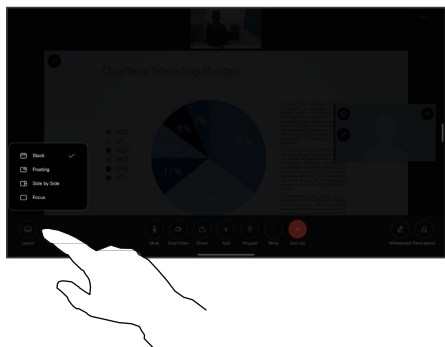
Cisco のデバイスは AirPlay をサポートし、使い慣れたシンプルな共有エクスペリエンスを提供します。iPhone、iPad、Mac を接続して、画面の共有、共同作業、オーディオやビデオコンテンツの再生などをワイヤレスで簡単に行うことができます。詳細については、[こちらの項目を参照してください。](#)



コンテンツ共有 通話中に画面レイアウトを変更する

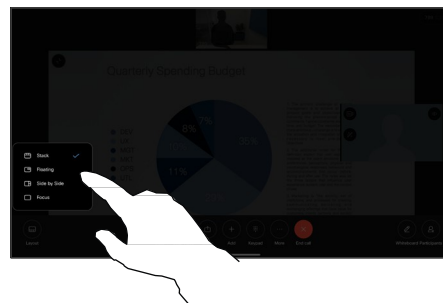


1



通話中に、画面をタップして呼制御を開き、[レイアウト (Layout)] ボタンをタップします。

2



開いたメニューから目的のレイアウトを選択します。



プレゼンテーションを共有する場合

使用可能なレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

重ねて表示 (Stack) : プレゼンターと最大 6 人の参加者がコンテンツの上にスタックされます。

フローティング (Floating) : プレゼンターはコンテンツの上にフローティングされます。

並べて表示 (Side by Side) : プレゼンターとコンテンツが画面を共有します。

フォーカス : コンテンツが画面全体に表示されます。

通話で利用可能なレイアウト

使用可能なレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

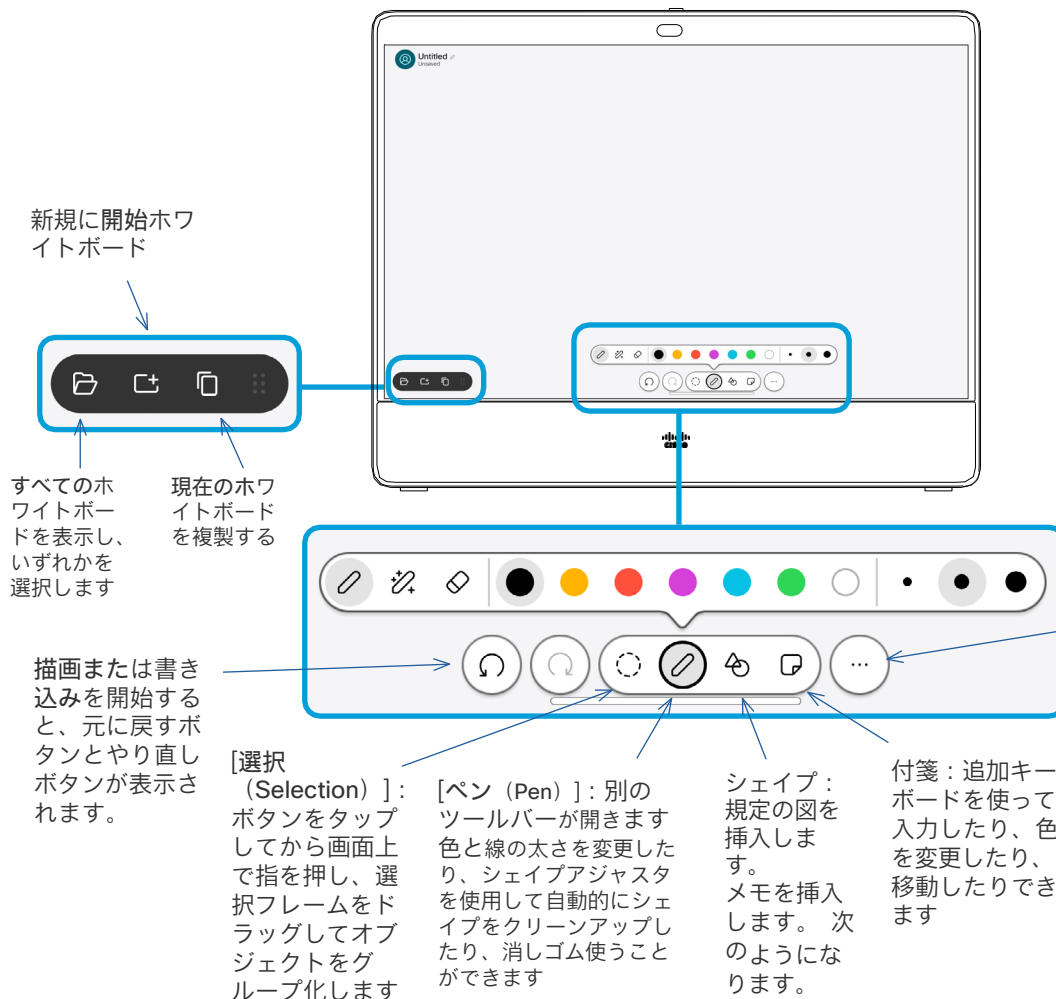
Grid : 最大 5 人の参加者をグリッド表示します。グリッドは、単一画面のデフォルトレイアウトです。

重ねて表示 (Stack) : 発言中のスピーカーの上に参加者のサムネイルが最大 6 枚表示されます。

プロミネント : 発言中のスピーカーを画面の左上に表示し、その他参加者を画面したと右側に表示します。

フォーカス : 発言中のスピーカーが画面全体に表示されます。

コンテンツ共有 ホワイトボード



ホワイトボードについて

Board Series または Desk Series のデバイスを使用すると、デジタルホワイトボードを利用できます。

ホワイトボードを開くには、Board のホーム画面で [ホワイトボード (Whiteboard)] ボタンをタップし、スタイラスまたは指を使用して、書き込みや描画を行います。

ホワイトボードページのサイズは、必要なだけ大きくします。2本の指でホワイトボードをドラッグし、ピンチしてズームします。

ホワイトボードに書いた内容を保存するには、電子メールで送信します。デバイスが内容を送信するように構成されている場合、[詳細 (More)] ボタンをタップし、[電子メールとして送信 (Send as email)] を選択します。ホワイトボードは PDF 形式で送信されます。

画面を下から上にスワイプするとタスクスイッチャーが開きます。開いているアプリケーション、現在のホワイトボード、ホーム画面が表示され、それらを切り替えることができます。

すべてのホワイトボードをクリアするには、コントロールパネルを開き、[セッションの終了 (End Session)] をタップします。



コンテンツ共有

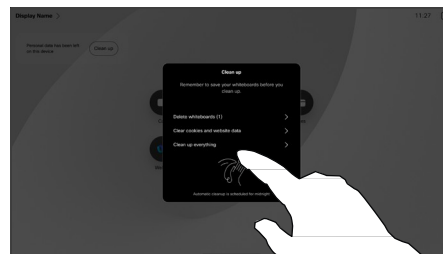
セッションを終了してデバイスをクリアする

1



作業が完了したらコントロールパネルを開き [セッションの終了 (End session)] をタップしますホーム画面で [クリーンアップ (Clean up)] をタップすることもできます。この通知はアプリケーションを終了して個人データが残っている場合に表示されます。

2



すべてのホワイトボード、すべての Web サイトデータ、またはその両方をクリアするかどうかを決定できます。Web サイトデータを削除するオプションは、Web エンジンが有効になっている場合にのみ表示されます。

セッションについて

セッション中、ホワイトボード、注釈、および Web アクティビティはデバイスに保存されます。休憩を取るか、アクティビティを切り替えてから、ファイルに戻って作業を続けることができます。

デバイスが [共有 (Shared)] モードの場合、いつでもセッションを終了でき、次のユーザーのためにすべてのホワイトボードと閲覧データを消去できます。

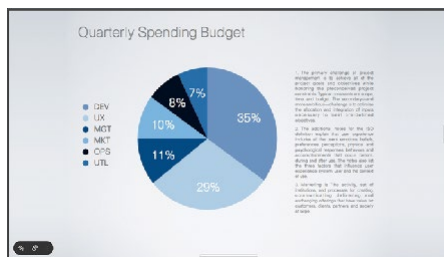
デフォルトでは、ホワイトボードと Web データは毎日午前 0 時に自動的に削除されます。自動クリーンアップが無効になっているか、別の時間に行われるように設定されているかどうかは、システム管理者に確認してください。



コンテンツ共有 共有コンテンツに注釈を付ける

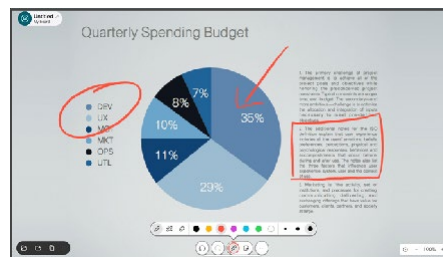


1



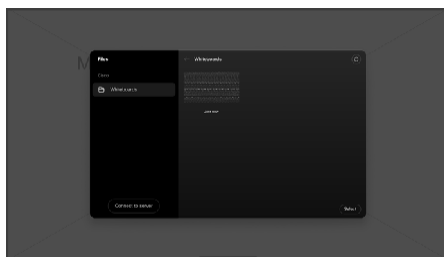
通話外では、注釈を付けたい画像が表示されたコンピュータ画面がデバイスと共有されます。[注釈 (Annotation)] ボタンをタップします。

2



画面の下部にあるツールを使用して注釈を付けます。その後、プレゼンテーションを再開するか、送信元を完全に切断できます。

3



注釈付きの画像がホワイトボードとして保存されます。上にスワイプすると、現在のホワイトボードがすべて表示されます。別のホワイトボードを追加したり、既存のホワイトボードを削除したりできます。セッションが終了すると、ホワイトボードは削除されます。

注釈について

通話以外でプレゼンテーションに注釈を付けることができます。

イメージに注釈を付けると、そのイメージのスナップショットが生成され、変更はプレゼンテーションに影響を与えません。

完了すると、注釈付きの画像がホワイトボードとして表示されます。[プライバシー上の理由から、ホワイトボードはしばらくするとデバイスから削除されるのでご注意ください。]

注釈を保持するには、注釈を電子メールで送信します（デバイスが送信するように構成されている場合）。

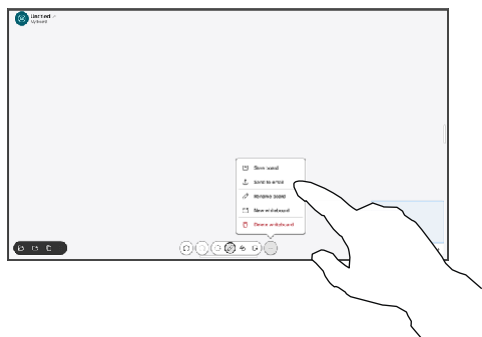
注釈は PDF として送信されます。



コンテンツ共有 注釈や図面を電子メールで送信する



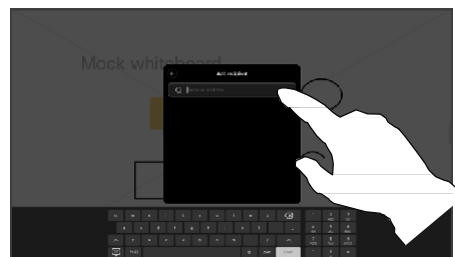
1



ホワイトボードで [詳細 (More)] をタップし、[電子メールに送信 (Send to Email)] をタップします。



2



受信者の名前またはアドレスを入力します。相手を選択し、右矢印をタップします。

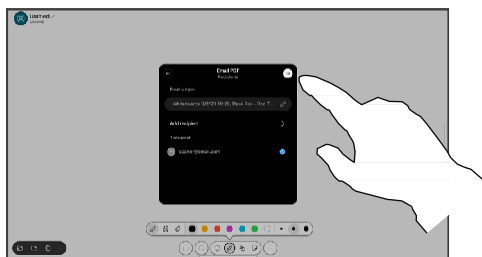
注釈について

デバイスが選択した受信者に電子メールの添付ファイルとして1つ以上のホワイトボードを送信するように構成されている場合は、そのように送信できます。

ホワイトボードは PDF 形式で送信されます。

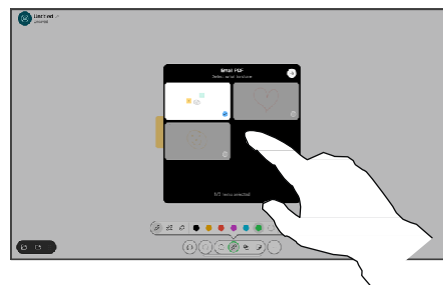
これは、共有デバイスでホワイトボードセッションの終了後にホワイトボードを保持する唯一の方法です。

3



必要に応じて Recipients を追加し、完了したら白い矢印をタップします。

4



送信するホワイトボードを選択します。もう一度白い矢印をタップすると、ホワイトボードが送信されます。



コンテンツ共有

有線タッチリダイレクト



Cisco デバイスの画面からラップトップを制御できます。これは、HDMI ケーブルや USB-C ケーブルを使用して Windows 10 ラップトップを Desk Pro に接続している場合に機能します。ドラッグアンドドロップ、描画プログラム、マップを含むタスクに最適です。



ローカルで共有している場合、または通話で共有している場合は、タッチリダイレクトを使用できます。



この機能は、Windows 10 でテストおよび検証されています。基本機能は別の OS でも動作するはずですが、

(Board Series) 注：この機能は、S Series Board および Board Pro でのみ利用できます。



制限事項：

- ・ [タッチリダイレクト (Touch Redirect)] を使用する場合、共有している画面で注釈を使用することはできません。
- ・ [タッチリダイレクト (Touch Redirect)] が使用されている場合、Cisco デバイスで音量コントロールは使用できません。ラップトップからボリュームコントロールを使用します。
- ・ **(Board Series)** デバイスに Touch 10 または Room Navigator コントローラが接続されている場合、USB- C ケーブルが Board に接続されている間はセルフビューを移動できません。



ブラウザでドラッグアンドドロップを有効にする



ブラウザでドラッグアンドドロップに [タッチリダイレクト (Touch Redirect)] を使用するには、ブラウザで有効にする必要があります。



- ・ Chrome の場合：`chrome://flags/#touch-events` に移動して、[有効 (Enabled)] に設定します。
- ・ Firefox の場合：`about:config` に移動して、`Dom.w3c_touch_events.legacy_apis.enabled = true` に設定します。
- ・ Edge の場合：`about:flags` に移動して、`Enable Touch Events = always on` に設定します。



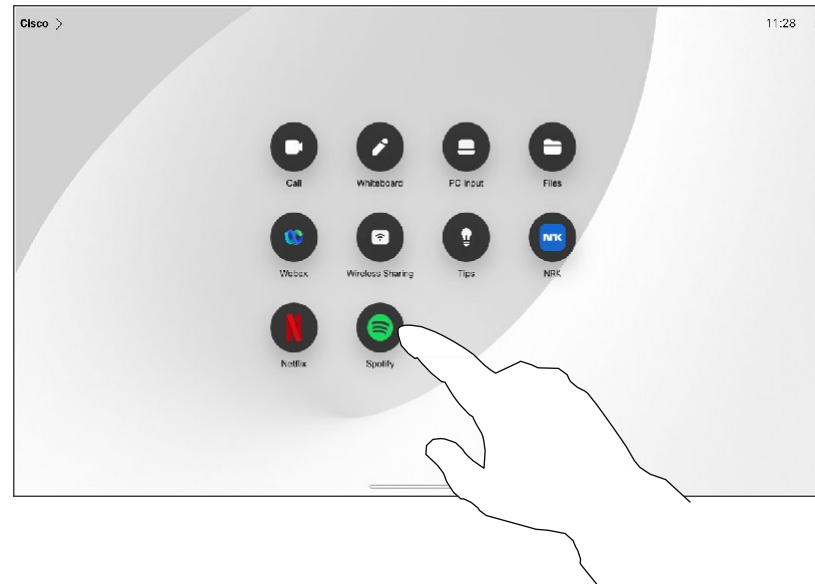
Windows 10 ラップトップでタッチリダイレクトを使用する

1. 日付と時刻の横にあるタスクバーのアクションセンターを選択してラップトップをタブレットモードに切り替え、[タブレットモード (Tablet mode)] を選択してオンにします。
2. HDMI ケーブルや USB- C ケーブルを使用してラップトップを Cisco デバイスに接続します。USB-C- USB-C ケーブルまたは USB-C- USB-A ケーブルのいずれかを使用できます。注：USB-C-USB-A ケーブルは、より長いケーブル長に対応しています。
3. デバイス画面で [共有 (Share)] をタップし、[タッチリダイレクト (Touch Redirect)] ボタンをタップします。

[タッチリダイレクト (Touch Redirect)] を使用中にデバイス上の他のアクティビティに切り替える場合は、画面を下から上にスワイプして別の画面またはアプリケーションを開きます。



コンテンツ 共有 Web アプリ



Web アプリについて

Web アプリケーションは、ユーザーがデバイスのホーム画面からアクセスできる Web ページまたはアプリケーションです。Web アプリケーションをローカルまたは通話中に共有して操作できます。

Web アプリケーションは全画面表示で起動し、15 分間使用されないとタイムアウトします。Web アプリは対話型にすることもできます。

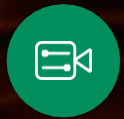
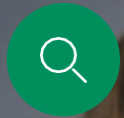
通話中に Web アプリケーションを開くと、そのアプリは自動的に共有されます。通話中に Web アプリケーションをプレビューすることはできません。

音声を再生するが音量調整ができない Web アプリを表示した場合は、参加者と共有している音声を調整できません。キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

デバイスの設定メニューから直接 Web アプリを追加、削除、編集できます。

コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。[Web アプリケーションの管理 (Manage Web Apps)] までスクロールしてタップします。Web アプリケーションを追加したり、既存の Web アプリケーションを編集または削除したりできます。

UI 拡張機能エディターで構成された Web アプリケーションは、[外部で管理された Web アプリケーション (Externally Managed Web Apps)] 配下の Web アプリケーションリストに表示されますが、デバイスから編集または削除することはできません。



スケジュールされた ミーティング



スケジュールされた会議

スケジュールされたミーティングに参加する

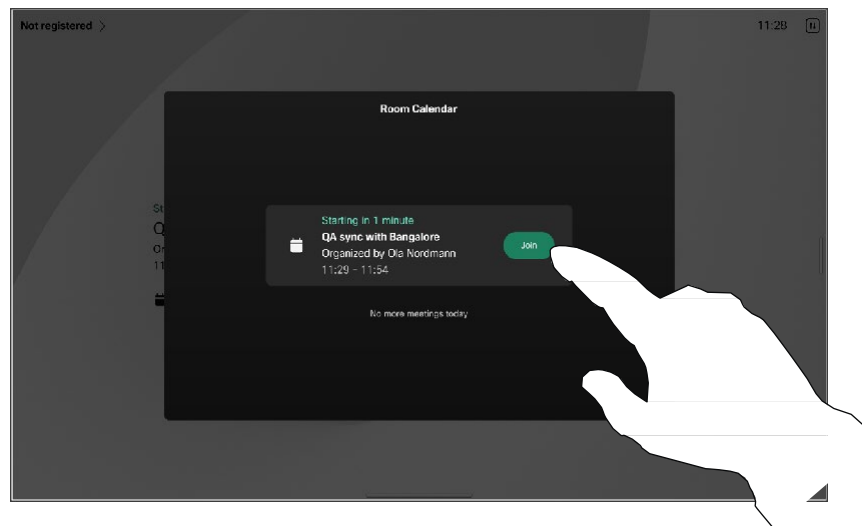


ミーティングへの参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。左の図のように、予定されているミーティングが表示されます。ミーティングのスケジュールがデバイス画面に表示されると、デバイスがスタンバイから復帰します。

ミーティングに参加するには [参加 (Join)] をタップします。

ミーティングは開始時刻の 5 分前に表示されます。ミーティングがすでに開始されている場合でも、いつでもミーティングに参加できます。



ミーティングが開始されると、参加を促すプロンプトが表示されます。[参加 (Join)] をタップします。



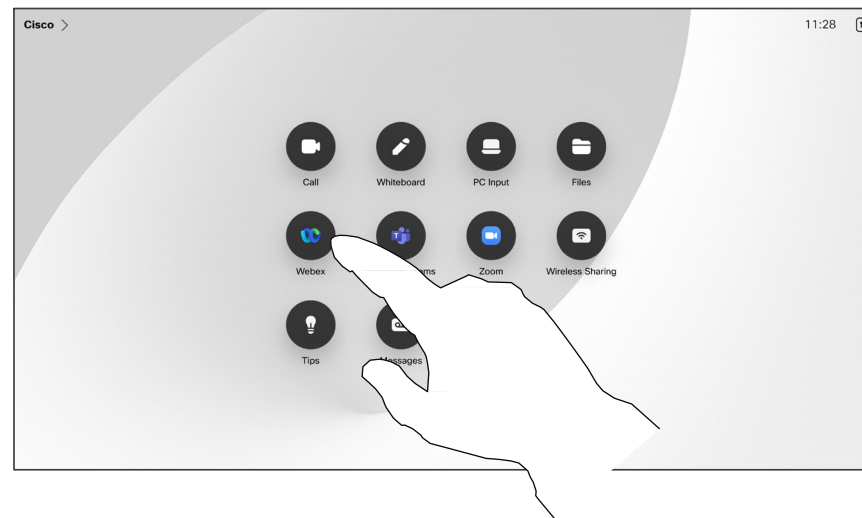
スケジュールされた会議

Webex ミーティングに参加する



会議への参加

デバイスは、Webex に接続された管理システムに接続されている可能性があります。



[Webex] をタップします。招待で受け取ったミーティング番号を入力するように求めるメッセージが表示されます。[参加 (Join)] をタップして、ミーティングに参加します。



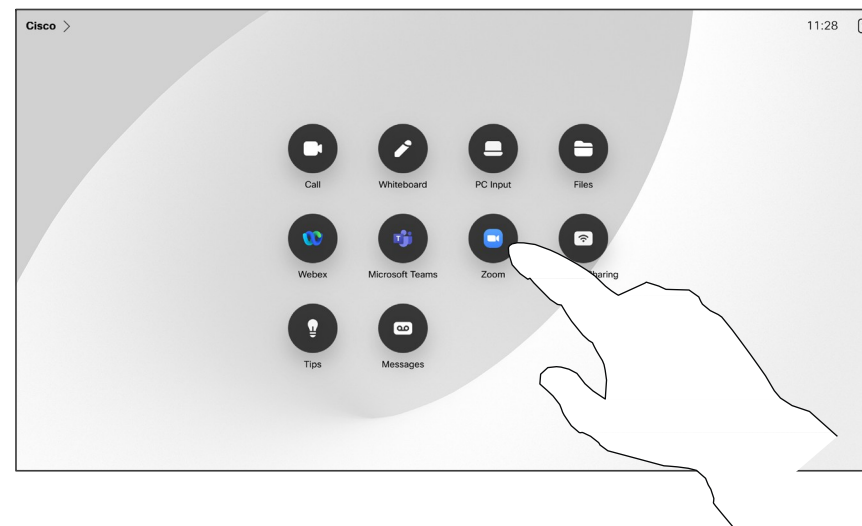
スケジュールされた会議

サードパーティのミーティングに参加する

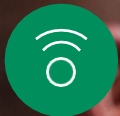


ミーティングへの参加

デバイスは、Zoom または Microsoft Teams に接続された管理システムに接続されている場合があります。



[MicrosoftTeams] または[Zoom]。に参加します招待で受け取ったミーティング番号を入力するように求めるメッセージが表示されます。[参加 (Join)] をタップして、ミーティングに参加します。



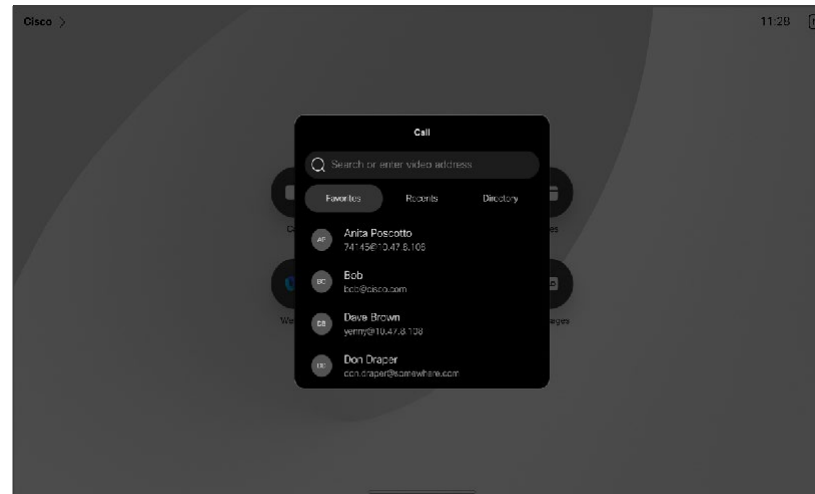
連絡先





連絡先

お気に入り、履歴、ディレクトリ



連絡先リストについて

[発信 (Call)] ボタンをタップして、連絡先リストを開きます。連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)]。これらの連絡先は自分で設定します。通常、頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要が生じる連絡先を登録します。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

[履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

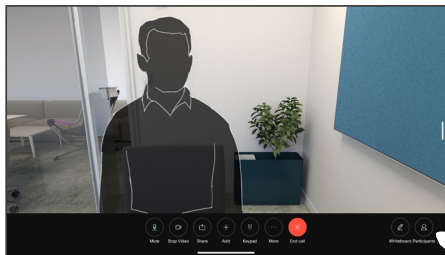


連絡先

通話時に誰かをお気に入りに登録する

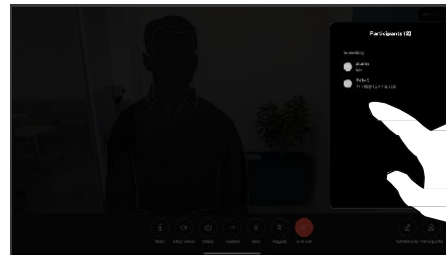


1



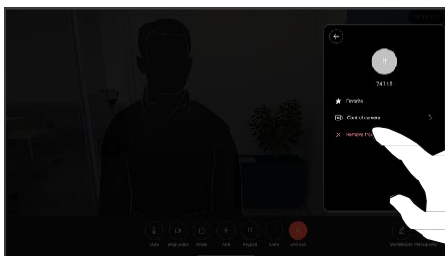
通話中に、画面をタップして呼制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。

3



[お気に入り (Favorite)] をタップします。メニュー以外の場所をタップしてメニューを閉じます。同じ方法で、[お気に入り (Favorites)] から人を削除します。

お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



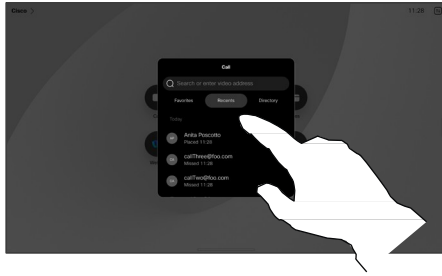


連絡先

非通話時に誰かをお気に入りに追加する

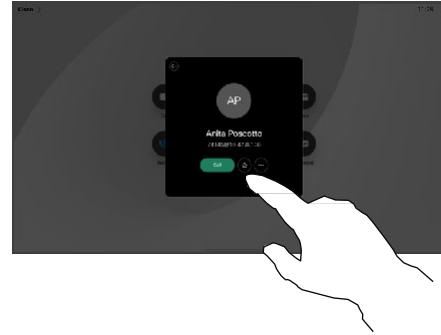


1



通話中でないときに、[発信 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探し、そのエントリをタップして連絡先カードを開きます。

2



連絡先カードのスターボタンをタップすると、すぐにその人をお気に入りに登録できます。または、[詳細 (More)] ボタンをタップします。

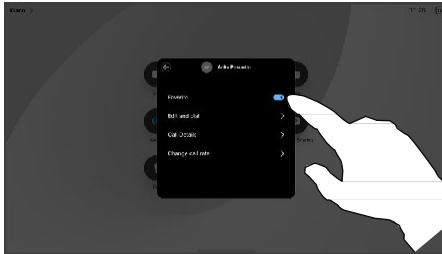
お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

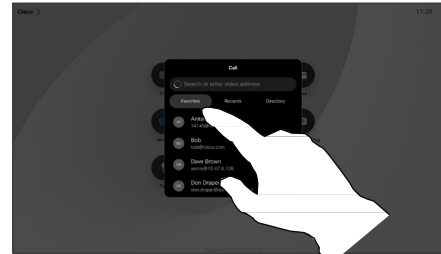


3



[お気に入り (Favorite)] をオンまたはオフに切り替えます。メニュー以外の場所をタップして終了します。

4



[お気に入り (Favorites)] からエントリを削除するには、[連絡先 (Contacts)] リストの中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。



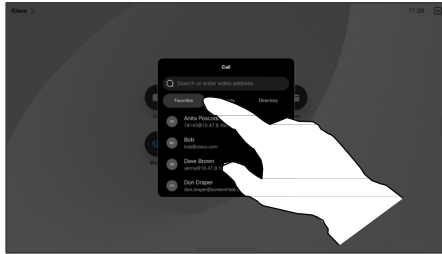


連絡先

お気に入りを編集する

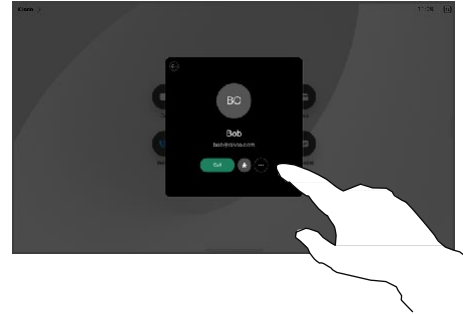


1



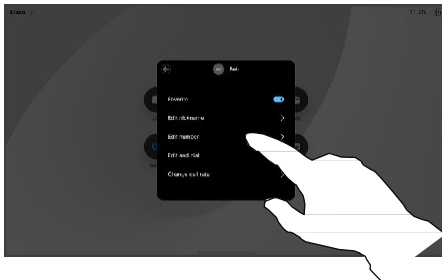
[発信 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。次に、[お気に入り (Favorite)] をタップします。

2



編集する人をタップします。[詳細 (More)] をタップします。

3

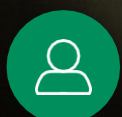
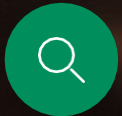


エントリーを編集し、キーボードの [保存 (Save)] をタップして終了します。または、連絡先カードの戻る矢印、またはカードの外側の任意の場所をタップして終了します。

お気に入りについて

お気に入りの連絡先はいつでも更新できます。





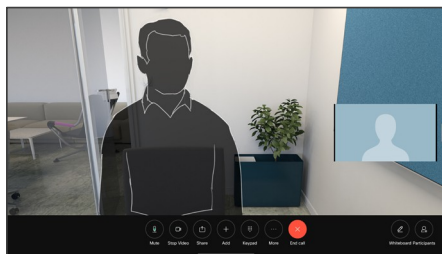
カメラ制御



カメラ制御 カメラのオンとオフを切り替える

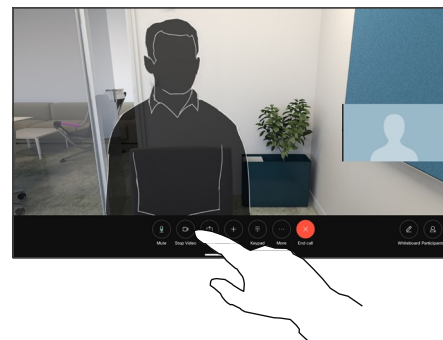


1



通話中に画面をタップすると、呼制御が表示されます。

2



[ビデオの停止 (Stop Video)] ボタンをタップします。[ビデオの開始 (Start Video)] をタップして、発信ビデオを再びオンにします。

ビデオオフについて

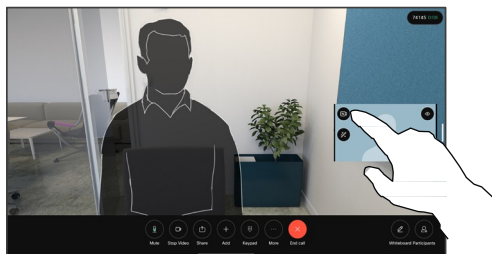
一部のデバイスでは、カメラを機械的にブロックすることで、カメラからのビデオ送信を制御することもできます。



カメラ制御

通話中および非通話時にセルフビューにアクセスして調整する

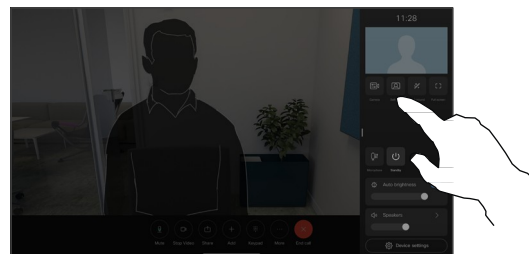
1



カメラがオンになっていることを確認します。通話中に画面をタップすると、通話の上にセルフビューが表示されます。次に、セルフビューの右隅にあるボタンをタップし、表示を [非表示 (Hide)]、[通話中に表示 (Show in call)]、または [常に表示 (Always show)] に変更します。

通話中または通話外に、コントロールパネルを開き、[セルフビュー (Selfview)] ボタンをタップし、同じ設定を表示します。

2



[非表示 (Hide)] を選択した場合でも、セルフビューはコントロールパネルに表示され、同じオプションが利用できます。

セルフビューについて

セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と通話外の両方で、画面上でセルフビューを表示、調整、および移動できます。

コントロールパネルを開くと、いつでもセルフビューを確認できます。カメラが開いていれば、そこにセルフビューが表示され、必要に応じて全画面表示に展開できます。全画面表示を終了するには、コントロールパネルを開き、もう一度 [全画面表示 (Fullscreen)] をタップします。

コントロールパネルの [セルフビュー (Selfview)] ボタンをタップし、セルフビューのセルフビューの表示を、[非表示 (Hide)]、[通話中に表示 (Show in call)]、または [常に表示 (Always show)] に設定します。



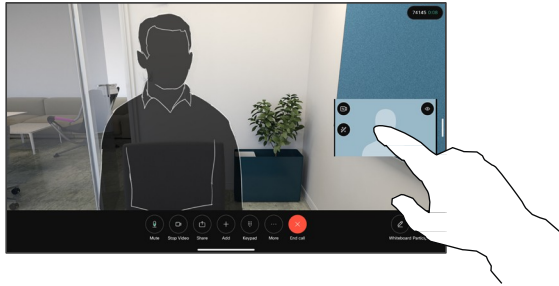


カメラ制御

セルフビューを移動する

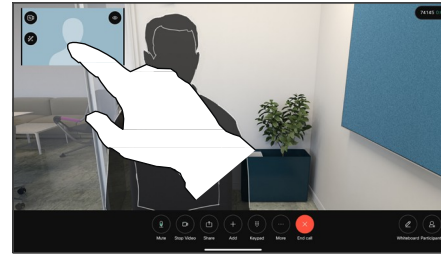


1



自画面の画像をタップしたままにします。画面上の新しい位置にドラッグアンドドロップします。

2



指を離して、新しい場所に画像を配置します。

セルフビューについて

セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と通話外の両方で、画面上でセルフビューを表示、調整、および移動できます。

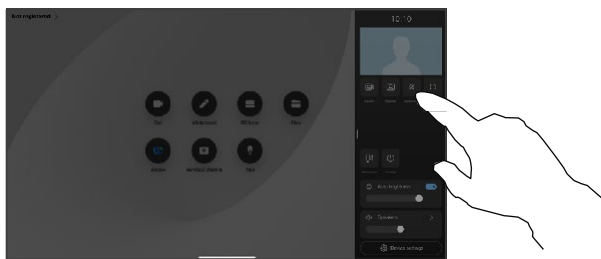




カメラ制御 仮想背景 (Desk Series)

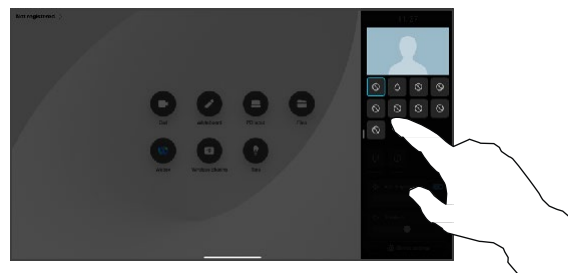


1



コントロールパネルを開いて [背景 (Background)] ボタンをタップするか、セルフビュー画像をタップして [背景 (Background)] ボタンをタップします。

2



背景のオプションが開き、選択できます。終わったらコントロールパネル以外の場所をタップします。

バックグラウンドについて

ビデオのバックグラウンドを使用すると、ビデオミーティングで他の人が見る画像のバックグラウンドを変更またはぼかすことができます。これは、画像の焦点を合わせたり、オフィスで乱雑なバックグラウンドを隠したりするのに役立ちます。

バックグラウンドオプション：

- バックグラウンドのぼかし
- バックグラウンドとしてのコンピュータ画面共有(コンピュータがデスクデバイスに接続されている場合)
- 標準の背景画像
- カスタム背景画像 (カスタム画像が管理者によってアップロードされました)

注：ぼかしがバックグラウンドを完全に覆わない場合があります。機密情報がビデオミーティングの他の人に見える可能性があります。



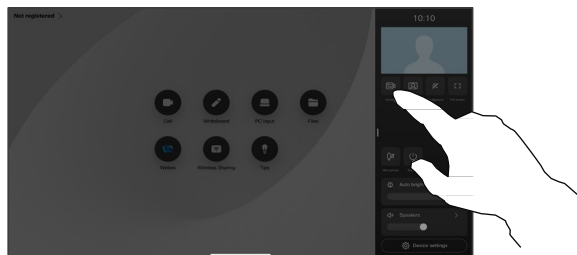


カメラ制御

カメラを手動で制御する



1



通話中または非通話時に、コントロールパネルを開き、[カメラ (Camera)] ボタンをタップします。または、セルフビュー画像をタップし、そこにある [カメラ (Camera)] ボタンをタップします。

[カメラ (Camera)] モードで [手動 (Manual)] を選択します。

2



コントロールを使用して、パン、チルト、ズームを調整します。画面の任意の場所をタップして終了します。

手動カメラ制御について

[ベストビュー (Best view)] 機能で、デスクデバイスが自動でユーザーをフレーム内に収めます。ただし、デバイスによっては、フレーミングの調整が必要になる場合があります。

通話中、または通話以外で、カメラのズーム、パン、および傾きを手動で制御できます。

(Board Series) カメラを手動調整する際、その表示が気に入った場合は、保存すると再度使用できます。定義済みのズームとカメラの方向でカスタムビューを作成して保存するには、Board に接続されたタッチコントローラを使用する必要があります。タッチコントローラを Board に接続している場合は、『RoomOS 11.14 Room Series ユーザーガイド』を参照してください。

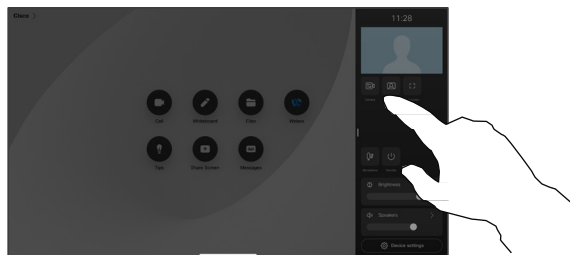




カメラ制御

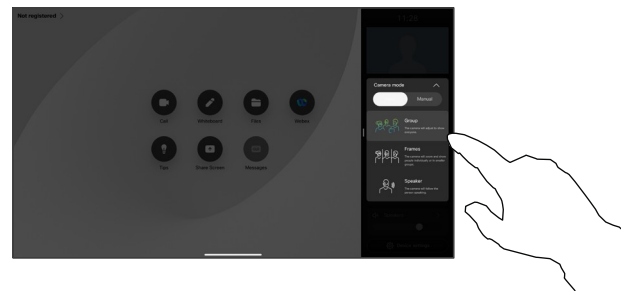
自動カメラモードを選択する (Board Series)

1



通話中または非通話時に、コントロールパネルを開き、[カメラ (Camera)] ボタンをタップします。[カメラ (Camera)] モードで [自動 (Auto)] を選択しま

2



カメラモードを選択します。コントロールパネルの外側をタップして終了します。

カメラモードについて

自動カメラモードを選択すると、ミーティング中にカメラを手動で制御することなく、デバイスとミーティングに最適なビューを取得できます。通話中かどうかにかかわらず、カメラモードを変更できます。

使用できる自動モードは、管理者が行った構成によって異なります。

- **グループ**：全員が映るようにカメラが調整されます。
- **フレーム**。参加者周囲の不要なスペースが切り取られ、最大 4 つのフレームで、人物がより近くに、均等なサイズで、同じ視線の高さに見えるように設定します。
- **スピーカー**。カメラは話している人を追跡します。スピーカートラッキングが機能する最大距離は 7.5 メートルです。

Touch 10 または Room Navigator を Board に接続している場合は、それを使用してカメラビューを制御することもできます。

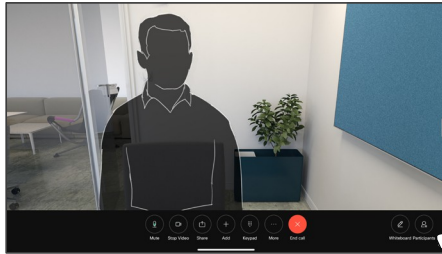


カメラ制御

遠端カメラを制御する



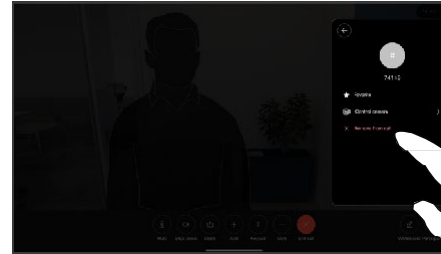
1



通話中に画面をタップすると、呼制御が表示されます。次に、[参加者 (Participant)] ボタンをタップします。

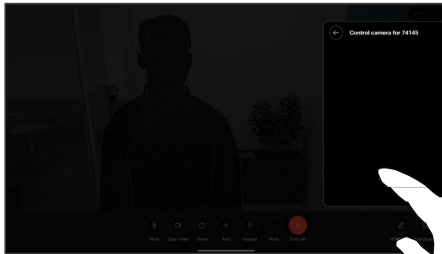


2



カメラを制御する参加者をタップし、[カメラを制御 (Control Camera)] をタップします。

3



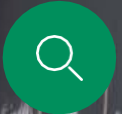
カメラ制御ボタンを使用して、リモートカメラのチルト、パン、ズームを調整します。終わったらコントロール以外の場所をタップします。

遠端カメラについて

他の 1 つ以上のデバイスにリモート制御可能なカメラが搭載されているビデオ通話に参加している場合は、自分のタッチコントローラからそれらのカメラを制御できます。

カメラがアクティブなスピーカーをフォローしている場合、またはベストビューを使用している場合、遠端デバイスがスピーカーモードをアクティブにしている場合、カメラをリモートで制御することはできません。

カメラのプリセットにリモートでアクセスすることはできません。



設定



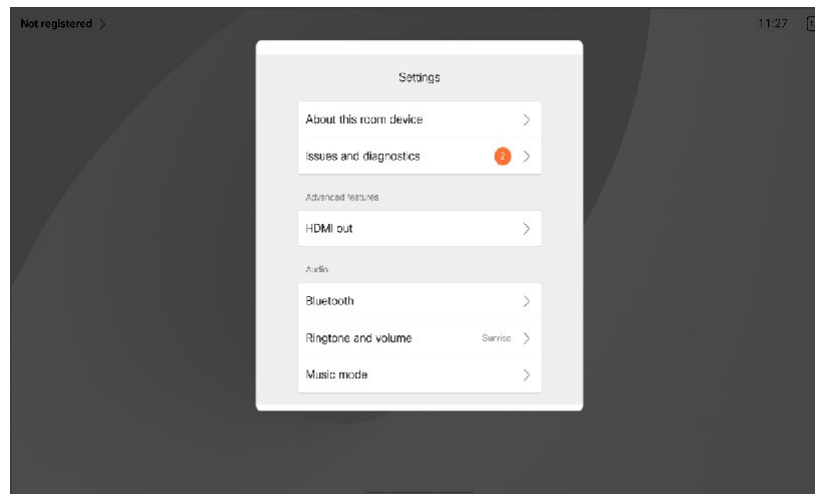
設定

コントロールパネルとデバイス設定



[設定 (Settings)] メニューでは、デバイスの情報を確認したり、いくつかの設定を変更したりできます。

- 詳細-ビデオアドレス情報、IP アドレスと MAC アドレス、SIP プロキシおよび現在のソフトウェアのバージョンを表示
- 問題と診断
- Bluetooth をアクティブ化/非アクティブ化します。
着信音を選択して音量を設定する
- 音楽モードをオンまたはオフにする
- 通話サービスの選択
- 有線およびワイヤレス (Wi-Fi) 接続を選択
- デバイスの再起動
- [初期設定へのリセット (Factory Reset)] を実行して出荷時の初期状態に設定を戻します。実行することで、現在の登録が失われます。出荷時の初期設定へのリセット操作を元に戻すことはできません



設定へのアクセス

コントロールパネルを開くには、画面の右からスワイプするか、ホーム画面の右上にあるボタンをタップします。カメラが開いている間は、上部にセルフビューが表示されます。コントロールパネルでは、次の設定を確認できます。

- カメラ制御
- セルフビュー
- (Desk Series) 背景
- マイクのオプション
- スタンバイ
- 画面の明るさ
- デバイスの音量/スピーカー
- デバイス設定へのアクセス
- セッションの終了 (ホワイトボードや注釈を作成した場合)

[設定 (Settings)] メニューにアクセスするには、コントロールパネルを開きます。次に、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。メニューが開き、スクロールできます。通話中の場合は、通話の上にダイアログとしてメニューが開きます。

使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。



米国本社
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本社
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
Singapore

ヨーロッパ本社
Cisco Systems International BV Amsterdam,
The Netherlands

Cisco は世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関係会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉が使用されていても、Cisco と他社間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)